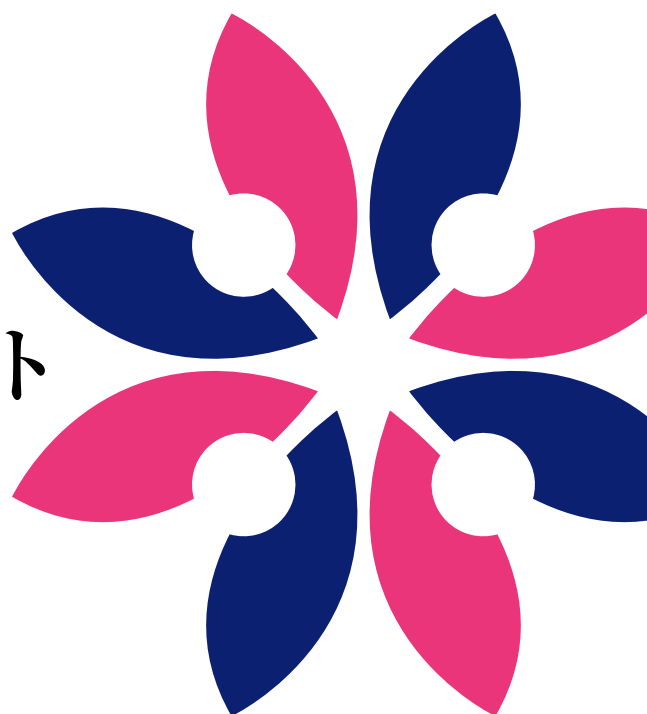


学校法人 藍野大学
統合報告書2023

協創レポート





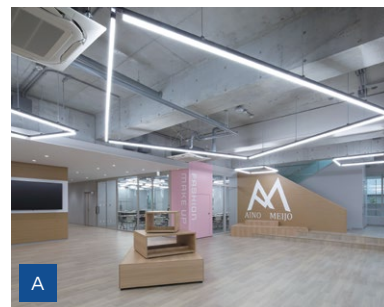
2024 年 4 月より明浄学院高等学校の新たな学びの場となる地上 4 階建ての最新設備を備えた新校舎が大阪阿倍野キャンパスに完成しました。社会の要請に応える教育体制の構築と進路選択の多様性確保を見据えた取り組みを加速し、理想の高等学校教育の具現化を追求してまいります。

Planning Concept

心に寄り添い、志を育む母校

先生・仲間⇒社会へと広がる世界

- I 普通科と衛生看護科が融合する「コミュニティ・ラウンジ」
(A・B・E)
- II 先生が生徒に寄り添える「オープンな職員室・教員ステーション」
(D)
- III 実社会を学べる「専攻毎の特別教室」「地域連携」
(F・G・H・I)
- IV 100 年の歴史を継承・発展する「和モダンな空間」
(C)



エントランス

情報発信や展示を兼ねたスペースや空間にアクセントを与える照明デザイン、さらには活動を可視化するガラスパーティションを施しています。



ライブラリー

壁面も活用した自習スペースや気軽に利用できるオープンな相談コーナーが設けられています。



作法室

100 年の伝統を受け継ぐ和モダンな空間。礼法の授業をはじめ、茶道部や箏曲部など部活動にも利用されます。



職員室



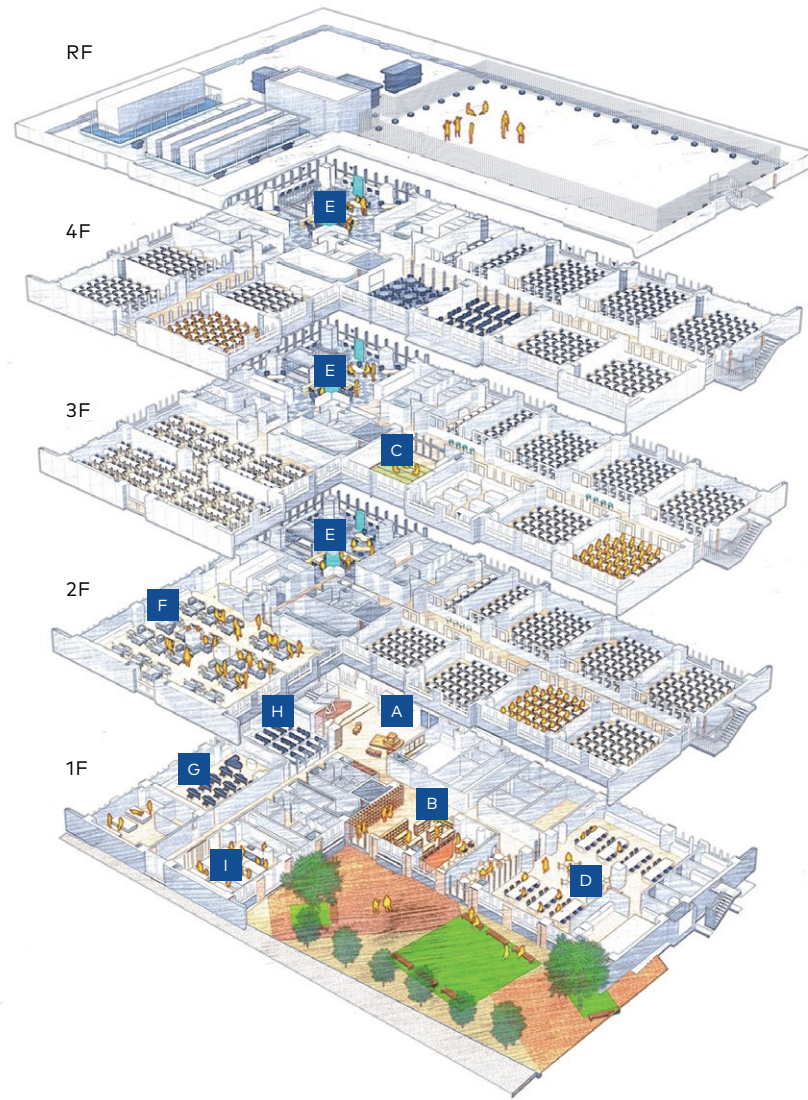
コミュニティラウンジ



看護実習室

(衛生看護科・看護メディカルコース)

20 台のベッドを配置できる広々とした設計。患者さん役と看護師役にわかれてロールプレイを行うなど、実践的な医療や看護を学びます。



音楽室（幼児教育専攻）

防音仕様のミュージックスタジオ。普段の音楽の授業だけでなく、幼児教育専攻のピアノレッスンルームとしても活用します。



ファッションメイクルーム
(ファッション・メイクアップ専攻)

エントランスの奥に広がるファッションメイクの実習室。最新のトレンドを学びながら、メイクアップやヘアメイクの技術を身につけます。



アリーナ（新体育館）

耐震安全性や機能性はもとより、省エネ性に配慮した居住域空調を行います。



ッキングルーム（ッキング専攻）

中庭の緑を見晴らす心地いい空間で、プロの講師から本物の技術を学びます。

INDEX

SECTION 01 イン트로ダクション

- 01 大阪阿倍野キャンパス新校舎完成
- 04 協創レポート（学校法人藍野大学統合報告書）の発行にあたって

SECTION 02 全体像

- 05 プロフィール
- 07 あゆみ

SECTION 03 価値創造

- 09 理事長メッセージ
- 13 AINO VISION 2030
- 15 財務戦略

SECTION 04 価値創造を支える仕組み

- 17 藍野大学
- 21 びわこリハビリテーション専門職大学
- 23 藍野大学短期大学部
- 25 明浄学院高等学校
- 27 藍野高等学校
- 28 大阪阿倍野キャンパスプロジェクト
- 29 SDGsと地域協創
- 31 学校法人藍野大学のガバナンス

SECTION 05 データ編

- 35 11か年財務サマリー
- 37 学校法人藍野大学設置校一覧・附属施設・関連法人

学校法人藍野大学統合報告書2023の発行にあたって

統合報告書 2023 を発行いたします。

本統合報告書は、財務情報と非財務情報を通じ、学校法人藍野大学の事業内容や持続的な価値創造に向けた取り組みについて、広くステークホルダーの皆様にご説明することを目的として編集しています。

本統合報告書が、皆様との対話に基づく「協創」を深めるきっかけとなれば幸いです。

- 対象期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日（一部に 2023 年度以前および以降の活動内容等を含みます）
- 対象組織：学校法人藍野大学（藍野大学、びわこリハビリテーション専門職大学、藍野大学短期大学部、明浄学院高等学校、藍野高等学校）
- 財務数値：記載金額・数値は単位未満を切り捨てて表示しています。
- 統合報告書に関するお問合せ：
統合報告書制作プロジェクト info@aino.ac.jp

プロフィール

学校法人藍野大学の概要と特色をご紹介します。

本法人の概要

建学の精神 —— 「愛智精神 [Philo-sophia] にもとづく人間教育」

教育理念 —— Saluti et solatio aegrorum(邦訳:病める人々を医やすばかりでなく慰めるために)

基礎データ (2023 年度実績)

設置する学校・学部・学科等

学校	学部 (研究科)	学科
藍野大学大学院	看護学研究科	-
藍野大学	医療保健学部	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科
びわこリハビリテーション専門職大学	リハビリテーション学部	理学療法学科・作業療法学科
藍野大学短期大学部	-	第一看護学科・第二看護学科・専攻科
藍野高等学校	-	衛生看護科
明浄学院高等学校	-	普通科

*2024年4月、藍野高等学校と明浄学院高等学校は統合されました。

学生・生徒数	教職員数	キャンパス	キャンパスの広さ
2,965人 (収容定員 3,056 人)	305人	4 (大阪阿倍野・大阪富田林 大阪茨木・びわこ東近江)	約 77 万 千平方メートル
科学研究費助成事業 (科研費) 採択状況			科研費で採択された研究の 女性研究者比率
(新規採択状況) 9 件	(継続研究状況) 25 件	(分担研究状況) 11 件	全大学中 2 位

学校法人藍野大学は SDGs 達成に力を入れています。

SDGs とは、持続可能な開発目標

「Sustainable Development Goals」の略称です。

2015 年 9 月の国連サミットで採択された、2030 年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。貧困や飢餓、教育、エネルギー、気候変動、平和的社会などの 17 のゴールから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。

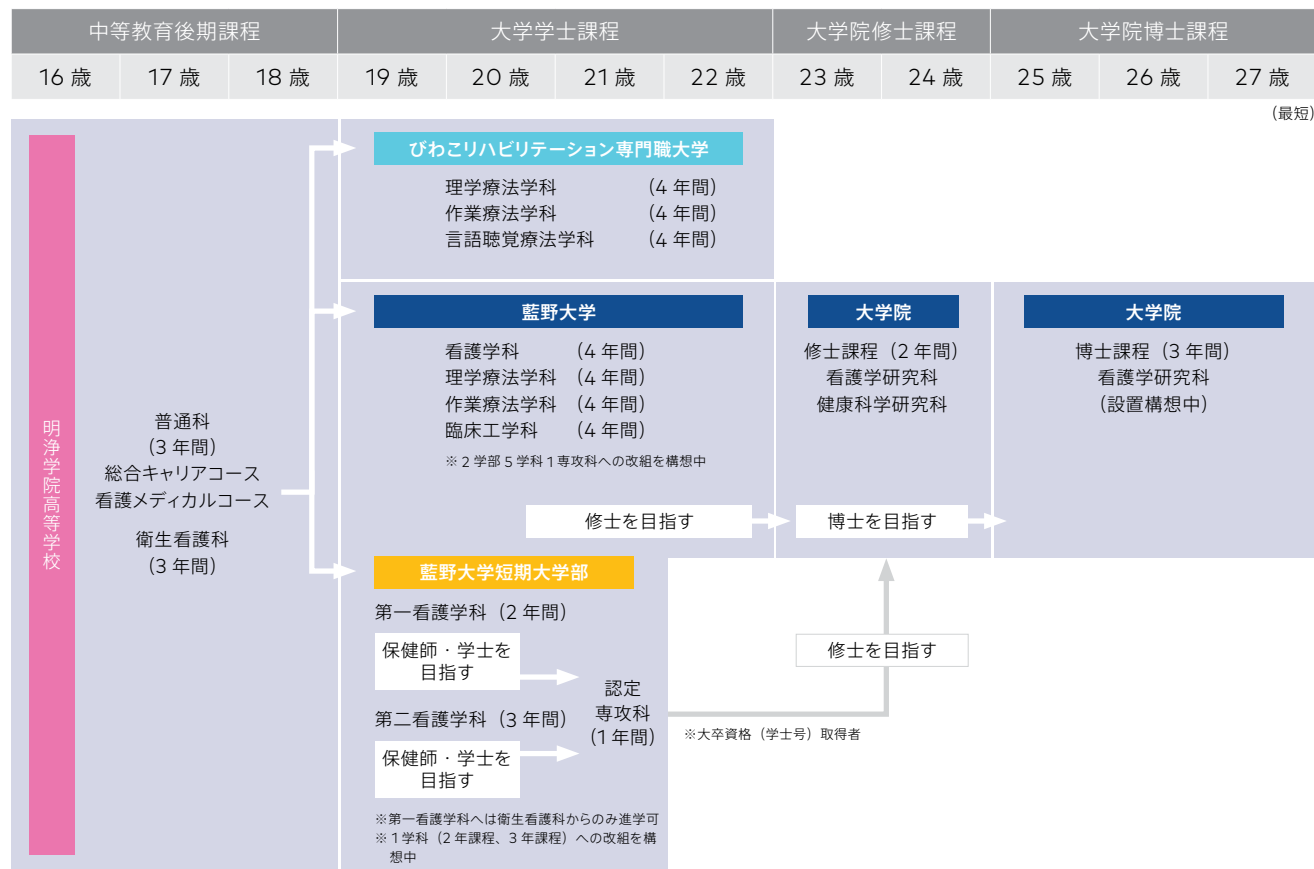
世界を変えるための
17 の目標



本法人の特色

進学パスウェイ (2024年4月1日現在)

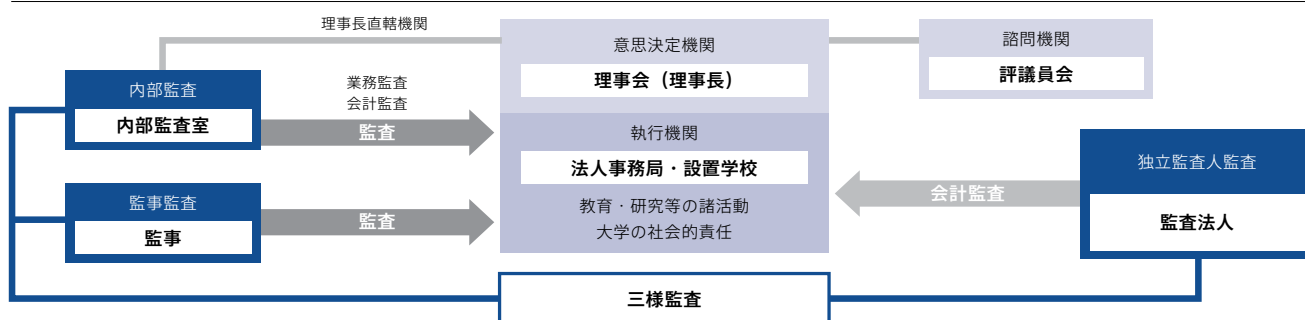
学校法人藍野大学には、中学生や高校生、社会人など様々な人が医療職（看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床工学技士）を目指せる様々なパスウェイが整っています。



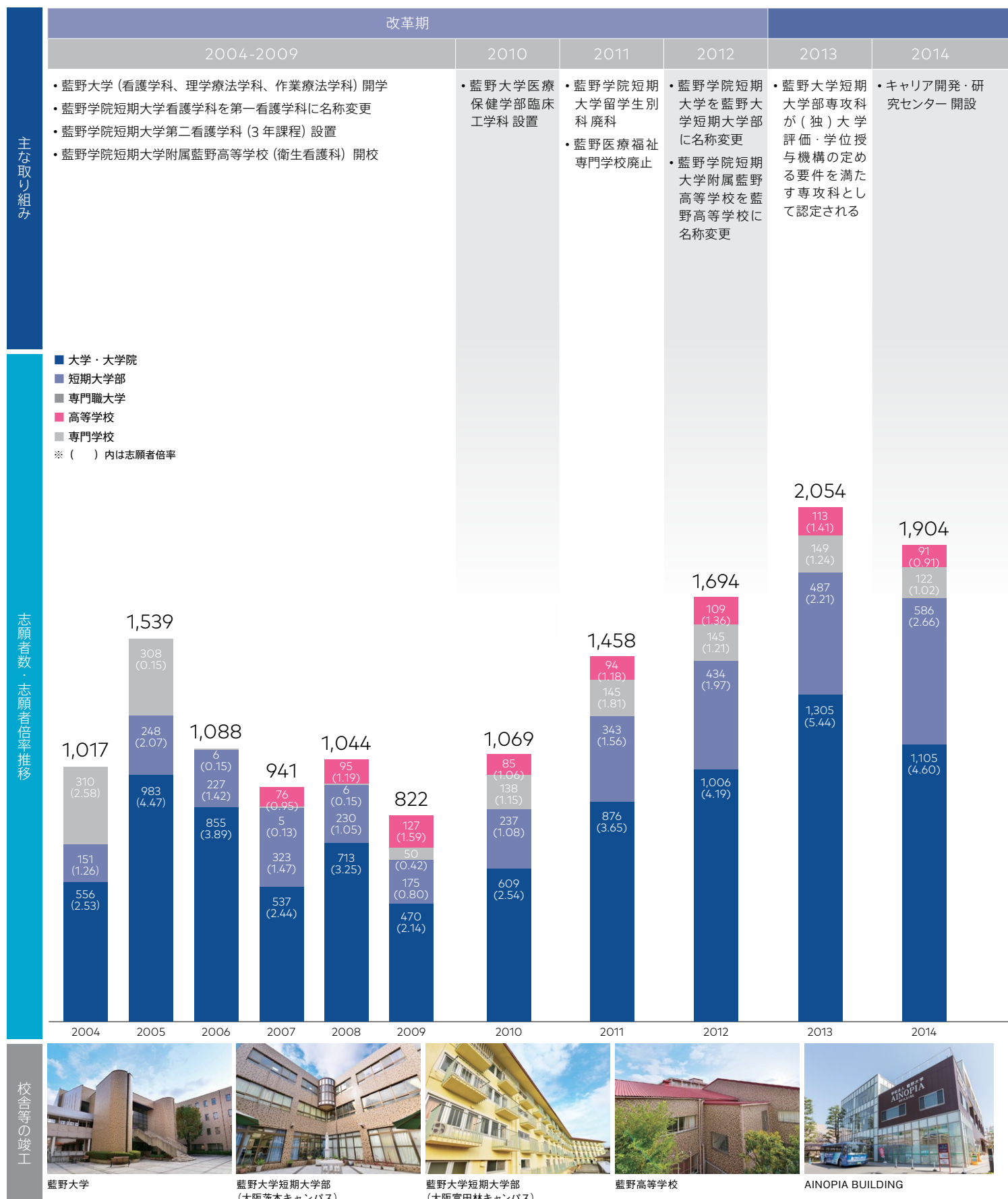
ガバナンス体制の実質化

社会的責任を背景にした大学のガバナンス改革の視点から、教育・研究および社会貢献の機能を最大化できるように、各機関、構成員が成果を挙げているかどうかを是々非々で評価する仕組みを構築しています。

学校法人藍野大学のガバナンス概念図



あゆみ



藍野大学

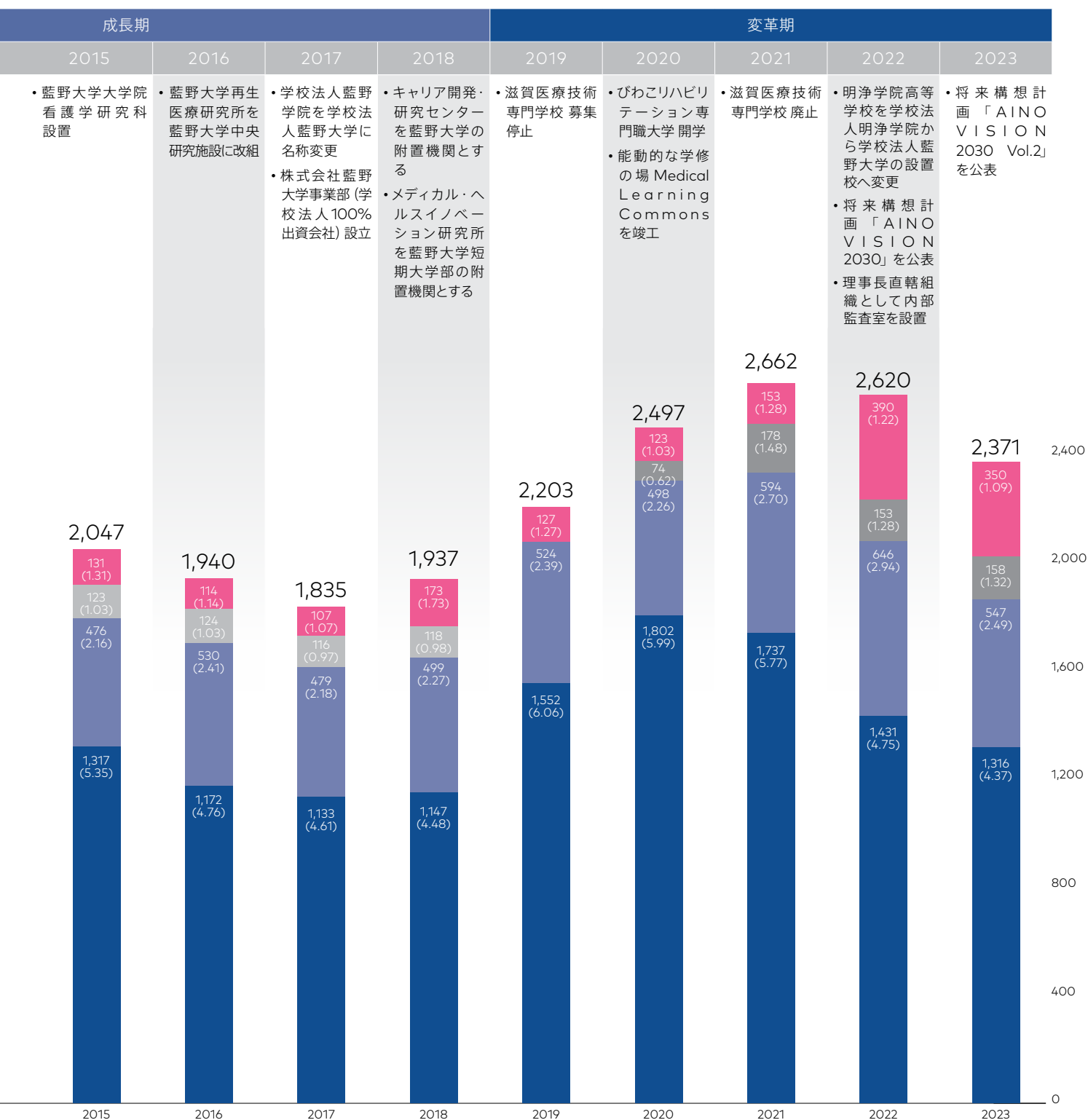
藍野大学短期大学部
(大阪茨木キャンパス)

藍野大学短期大学部
(大阪富田林キャンパス)

藍野高等学校

AINOPIA BUILDING

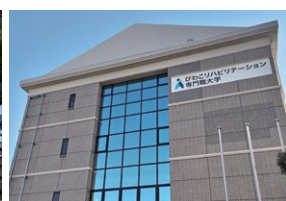
校舎等の竣工



びわこリハビリテーション専門職大学
(びわこ東近江キャンパス)



藍野大学 (M・L・C)



びわこリハビリテーション専門職大学
(びわこ八日市キャンパス)



明浄学院高等学校



明浄学院高等学校アリーナ

理事長メッセージ

AINO VISION 2030のもと、 愛智精神にもとづく人間教育と地域社会との協創を通じて ブランド価値の最大化を追求してまいります

はじめに令和6年1月に発生した能登半島地震により亡くなられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地域の皆様の安全と1日も早い復興をお祈り申し上げます。さて、学校法人藍野大学では、このたび「統合報告書2023」を発行することとなりました。ステークホルダーの皆様のご参考に供すべく、ここに本法人の運営方針と現況、ならびに中長期的な展望をご紹介します。



学校法人藍野大学 理事長

小 川 英 夫

「建学の精神」に託した思い

学校法人藍野大学は、1968年に医療法人恒昭会藍野病院附属准看護学院を開設して以来、建学の精神である「愛智精神〔Philo-sophia〕にもとづく人間教育」と教育理念である「Saluti et solatio aegrorum（病める人々を医やすばかりでなく慰めるために）」のもと、人間愛と知性と情操を高め、継続的な自己研鑽を基礎に深い探究心を持った医療従事者を輩出してまいりました。「アフターコロナ」への転換に伴う急激な社会構造の変化のなか、日本の社会は最新の知見に根ざした医療サービスとともに、地域に密着し、心の通った安心できる医療の提供を求めています。学校法人藍野大学は、そうした社会の

要請に応え、日本の地域医療の質の向上に貢献します。

わが国ではいま、少子高齢化による労働人口の減少と、ITやDXを駆使した企業・自治体の業務効率化の取り組みが従来の社会構造を改変しつつあります。そうしたなかで、日本社会の美風であった人を思いやる気持ちが失われがちであることを私は深く憂慮しています。医療従事者もその例外ではありません。専門知識や技術を用いて治療を行うだけでなく、患者さまの心に寄り添い、QOL（生活の質）の向上に努めることが医療従事者の本来の使命のはず。しかし、多忙な日常に紛れて医療行為がルーティンワークになりがちであることも、また否定できない現実でしょう。

本法人の設置校は基本的に、医療関係のライセンスを取得するための教育機関であり、各校ともに各種国家試験の対策に力を注ぎ、100%の合格率を目指して実践的な教育プログラムを実施しています。確かに看護師、保健師、理学療法士など、医療に携わる専門職には高度な知識と技能が不可欠であり、それらの習得を目的とする教学マネジメントがきわめて重要なものであることは言うまでもありません。しかし私は、知識と技能以上に、人間性を高めるための「内なる訓練」が大切だと考えています。

医療機関等を受診して、あるいは入院して、患者さまが最も長く接するのは医師ではなく看護師です。患者さまから「この人には何でも相談できる」と思われる看護師になれるかどうか。それは、本法人の設置校に学ぶ学生たちが、患者さまの心と人生に寄り添うことの大切さを深く認識し、その思いに沿って日々研鑽を積んできたかどうかにかかっています。また、資格取得後も安心することなく、あるべき医療の理想像に向けて努力を積み重ねていくことも不可欠です。学校法人藍野大学はこれからも、様々な医療職へのパスウェイを整備・拡充するとともに、人間に対する深い愛を持ち、生涯にわたって医療従事者としての誇りを持ち続けることのできる人材の育成に邁進していく考えです。

環境と社会のサステナビリティに向けた取り組み

近年、持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みが政府・行政や企業だけでなく、各種教育機関にも求められるようになってきました。学校法人藍野大学でも、愛智精神にもとづく人間教育を掲げた建学の精神や、病める人に癒しを提供することを謳った教育理念と、SDGsの諸課題がその根本的な精神において通底しているとの認識に立ち、環境と経済社会の持続可能性に向けた取り組みに力を注いでいます。

そのひとつが、食品廃棄ゼロエリア創出プロジェクトです。世界に目を転じると、8億人が今日の食べ物に困っている現状がある一方、年間約25億トンの食品が廃棄処分されていると言われています。そうした現状を踏まえ、本法人では2022年に大阪茨木キャンパスの食品廃棄ゼロエリア化の取り組みをスタート。学生・生徒、教職員に対する食品ロス削減の啓発活動を行うとともに、学生食堂における食事準備量の最適化や廃棄物の削減と再利用に努めています。本法人の取り組みは内外から高く評価され、2022年には教育機関として初めて大阪府より「おおさか食品ロス削減パートナーシップ事業者」に認定されたほか、環境省からは2022年、2023年と連続で「食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業」に採択されています。

SDGsへの貢献は、決して特別な取り組みではありません。環境、社会そして本法人自身のサステナビリティを高めるための当たり前の施策であり、教育という公共性の高い事業を営む法人として果たすべき当然の責務だと考えています。

「AINO VISION 2030」の進捗状況と今後への課題

学校法人藍野大学は2022年4月、法人運営のさらなる改善・充実に向けた2030年度を目標年度とする将来構想計画「AINO VISION 2030」を公表しました。本構想では、学校法人藍野大学が目指す姿を「日本の医療業界に貢献」とし、アクションプラン（中期行動計画）では設置校5つの基本方針を明確にロードマップに落とし込み、現在、進捗状況をベンチマークしています。また、内部質保証の実質化と教学マネジメント推進体制の構築を中心命題に据えたうえで、教育・研究・組織運営の全般において、絶えざる改善を通じて各設置校の価値向上を図り、日本の地域医療の進展に献身していくことを基本方針として打ち出しました。さらに政府、地方公共団体、企業との連携のもとで、社会課題の解決に寄与するソーシャルイノベーションを協創していくことを価値創造プロセスの根幹に位置づけ、その着実な進捗のために経営資源を積極投入しています。

少子高齢化を背景に若年層の人口減少が加速するなか、日本における教育機関の運営はかつてない厳しさに直面しています。公立大学でも定員割れに陥っているケースが少なくありません。学生募集に苦慮する困難な状況は本法人をはじめとする私立の医療系大学や短期大学でも同じです。医療系大学・学部の新設が相次ぐ一方、多くの私立校が存続の危機に直面しています。

本法人の設置校が受験生から「選ばれ続ける存在」になるためには、各校の魅力を高めると同時に、それぞれが提供する独自価値を学生・生徒のみならず広く社会に向けて訴求していくことが必要です。こうした観点から、本法人では傘下高等学校の統合・再編と短期大学部の新キャンパス整備構想を策定し、その実現に取り組んできました。明浄学院高等学校については2024年4月、藍野高等学校を統合し、大阪阿倍野キャンパスに本拠を置く新生・明浄学院高等学校として新たな歴史をスタートさせました。また、2025年4月には藍野大学短期大学部の大阪茨木キャンパスと大阪富田林キャンパスを大阪阿倍野キャンパスに移転・統合し、地域医療を担う看護師・保健師人材養成の拠点として地域医療に貢献できる「大阪阿倍野キャンパス AINO NURSE ISLAND 構想」を実現してまいります。

大阪阿倍野キャンパスは大阪市の中心部に位置し、大阪メトロ御堂筋線・谷町線、JR 阪和線、近鉄南大阪線の4路線を利用できる絶好のロケーションを誇っています。明浄学院高等学校と藍野大学短期大学部が同じキャンパスに並立することで、本法人が従来進めてきた高大連

学校法人藍野大学 キャンパス再編図

学校法人藍野大学 2022.4.1～2024.3.31

大阪茨木キャンパス

藍野大学・大学院
藍野大学短期大学部 第一看護学科・専攻科
藍野高等学校

大阪富田林キャンパス

藍野大学短期大学部 第二看護学科

びわこ東近江キャンパス

びわこリハビリテーション専門職大学

大阪阿倍野キャンパス

明浄学院高等学校

学校法人藍野大学 2024.4.1～

大阪茨木キャンパス

藍野大学・大学院
藍野大学短期大学部 第一看護学科・専攻科
2025.4.1～ 大阪阿倍野キャンパスに移転予定

大阪富田林キャンパス

藍野大学短期大学部 第二看護学科
2025.4.1～ 大阪阿倍野キャンパスに移転予定

びわこ東近江キャンパス

びわこリハビリテーション専門職大学

びわこ八日市キャンパス

びわこリハビリテーション専門職大学

※1年次（言語聴覚療学科は2年次まで）の授業はびわこ八日市キャンパスで、2年次以降の授業はびわこ東近江キャンパスで実施予定

大阪阿倍野キャンパス

明浄学院高等学校（藍野高等学校統合）

携、高大接続の一層の進展が期待されるほか、ふたつのキャンパスに分散していた短期大学部が移転・統合することにより、事務組織の一元化と教員配置の効率化が実現します。さらに阿倍野区には多数の大学や医療機関が存在していることから、本法人の地域社会との共生・協創も一段と加速するでしょう。大阪阿倍野キャンパスは、明浄学院高等学校および藍野大学短期大学部の魅力を一段と向上させ、募集力を強化する切り札になるものと期待しています。

ただ、新キャンパスの始動によって、法人運営のすべてが円滑に進むというわけではありません。新生・明浄学院高等学校として最初の募集となった2024年度入試において、衛生看護科には想定以上の志願者が集まりました。志願者の増加は喜ばしいことですが、多数の学生を受け入れると、それに見合った実習先を確保する必要があります。また高等学校の衛生看護科は准看護師になることを教育の主目標としており、短期大学部の2年間と併せ計5年で看護師資格を取得できるよう制度設計されています。高等学校と短期大学部の接続強化や充実した実習体制の確立など、取り組むべき課題は山積しています。学校法人藍野大学は今後も、大阪茨木、大阪阿倍野、びわこ東近江、びわこ八日市の4地域4キャンパス体制のもと、多彩な進路ニーズに対応する実効性の高い教育システムを構築し、社会課題の解決に貢献する有為な人材の輩出に努めてまいります。

藍野グループのさらなる進化を目指して

私が学校法人藍野大学の理事長に就任して16年が経過しようとしています。この間、本法人は、在校生、保護者、卒業生、実習先・勤務先である各種医療機関、キャンパスが立地する地域にお住まいの方々など、多くのステークホルダーの皆様を支えられて着実な発展を成し遂げてきました。しかし、その道のりは決して平坦なものではありませんでした。2008年度末の支払資金は816万円となり、法人の存続が危ぶまれる状態に陥っています。こうした苦境を乗り越えられたのも、ひとえにステークホルダーの皆様のご理解とご支援の賜と感謝しております。

そして、忘れてはならないのが、法人の健全な運営と学生・生徒への人間教育、そして医療知識と医療技術の深化を追求する研究活動に注力してきた熱意ある教職員の存在です。人間がひとりで発想できること、実行できることには限りがあります。教職員の各種教育課題に対する誠実な姿勢と開学以来の開拓者精神こそ、本法人の発展を牽引してきた原動力だと言えるでしょう。学校法人藍野大学はこれからも、多様性と挑戦を重んじる組織風土を維持しつつ、法人自身の人的資本の強化を図り、医療教育の未来を切り拓いていきます。

18歳人口の減少、DXの進展による産業社会の構造変化、物価高と家計の逼迫、大学・短大の競合激化など、私立教育機関の運営環境は引き続き厳しい状況で推移することが予想されます。そうしたなかで本法人がAINO VISION 2030を確実に推進させるためには、学生・生徒の多様な進路ニーズに応える多角的な教育プログラムを構築・実行するとともに、卒業後も教育と実務の両面で実践的なサポートを続行していくことが不可欠です。教職員、在校生、卒業生など本法人に関わるすべての人たちの力を結集して、日本の医療に変革をもたらす新たな価値の創造に挑戦していきます。

学校法人藍野大学の最大の財産は、医療機関や地域社会から寄せられる信頼と期待です。その信頼と期待にしっかりと応えられるよう、この先も透明性のあるガバナンスと適時的確な情報発信を通じて健全かつ継続的な発展を追求し、ブランド価値の最大化を目指していきたいと決意しています。

ステークホルダーの皆様には今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

AINO VISION 2030

2030 年度を目標年度とする長期ビジョン

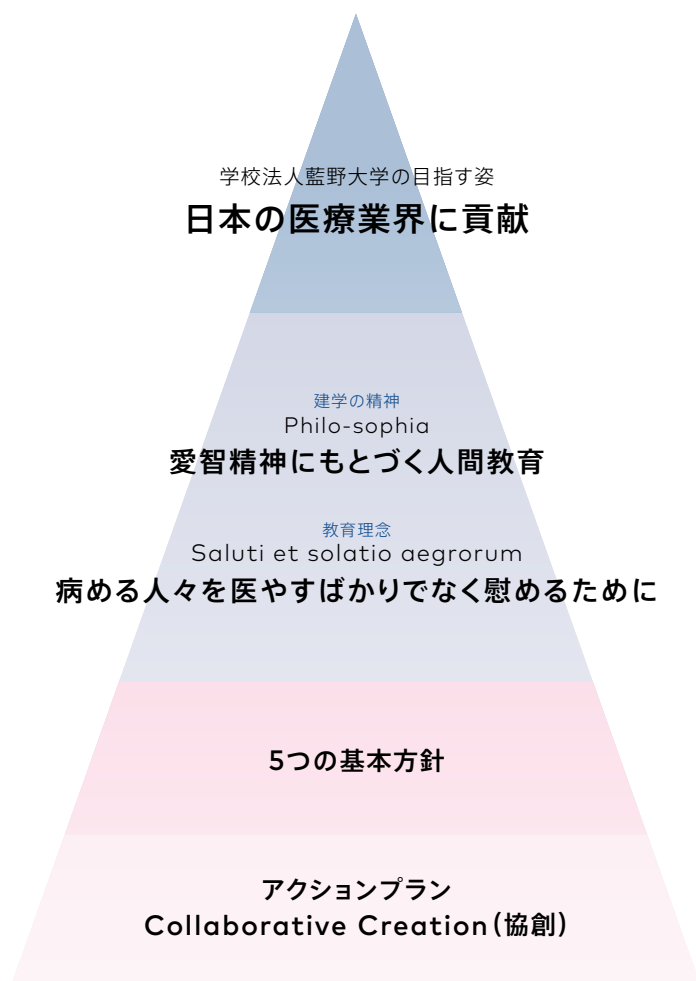
本学は、日本の医療業界に貢献することを使命とし、これまでに多くの深い探求心を持った医療従事者を輩出するとともに、教育、研究、産学連携等を通じて日本の地域医療の質の向上に貢献してきました。

しかし、学校運営を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、本法人がそのミッションを遂行するためには、情勢を的確に把握し、変化に適切に対応していく必要があります。

AINO VISION 2030 では、本法人の基本理念とこれまでの歩み、社会情勢を踏まえつつ、2030 年の目指すべき学校像およびこれを実現するための重点戦略を掲げています。

すべての教職員がこのビジョンを理解し、知恵を出し合いながら、実現に向けて取り組んでいきます。

AINO VISION 2030 の概念図



各設置校の基本方針

【藍野大学】

- (1) 学部・学科・コース等設置による将来構想を検討
- (2) リハビリテーション分野修士課程の設置を検討
- (3) 大学院看護学研究科博士後期課程の設置を検討

【びわこリハビリテーション専門職大学】

- (1) 行政と商業の中心地である八日市駅前に新キャンパスを開設
- (2) 大学院、言語聴覚学専攻の設置など、学部学科等の再編構想の検討
- (3) 地域連携事業の推進

【藍野大学短期大学部】

- (1) 第一看護学科、専攻科（地域看護学専攻）および第二看護学科を大阪阿倍野キャンパスに移転
- (2) 藍野高等学校および明浄学院高等学校との高短大連携を強化
- (3) 第一看護学科および第二看護学科の新たな統合を検討
- (4) 大阪阿倍野キャンパス AINO NURSE ISLAND 構想の検討

【藍野高等学校】

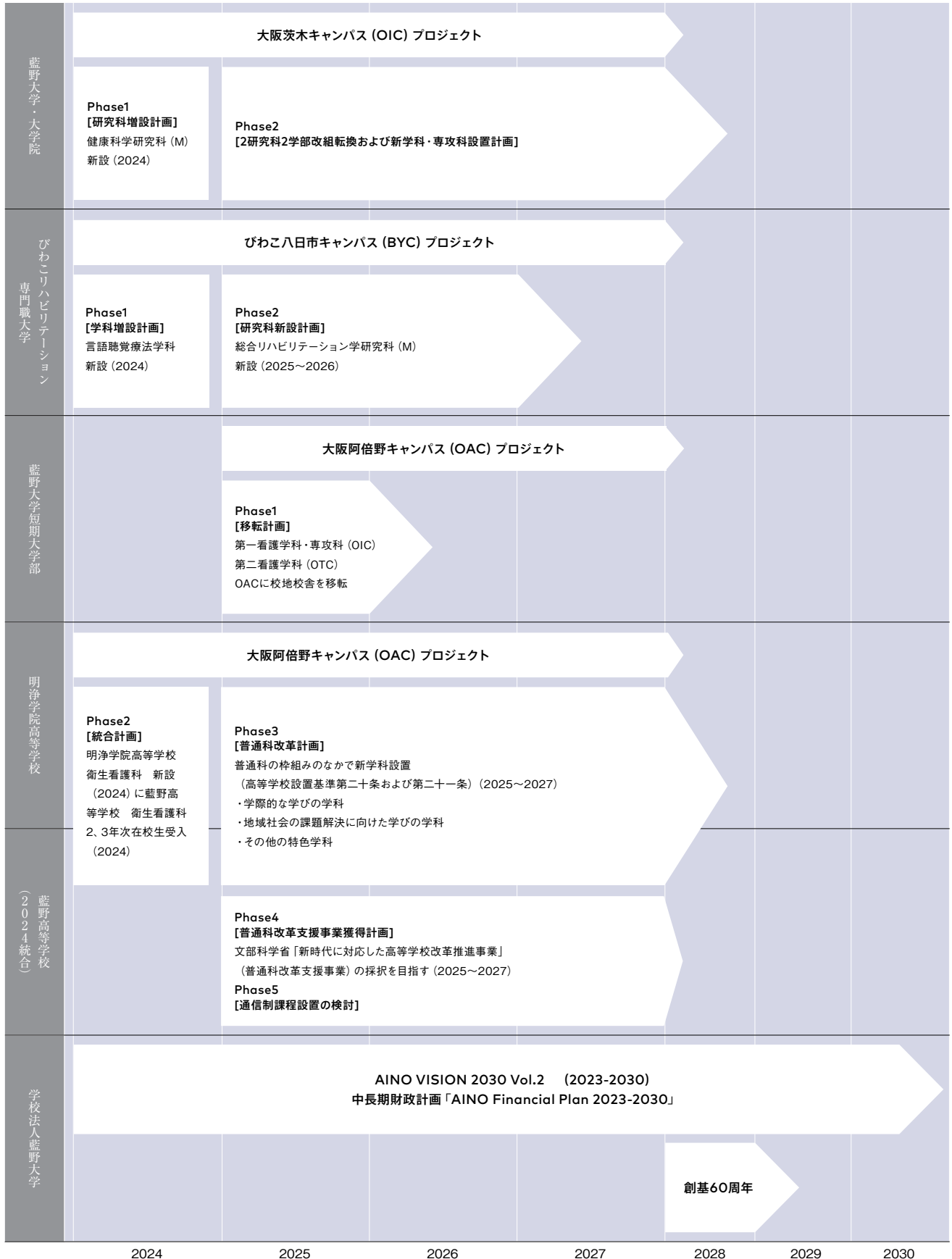
- (1) 明浄学院高等学校との統合
- (2) 高等学校（准看護師3年課程）＋藍野大学短期大学部第一看護学科（看護師2年課程）による正看護師養成を存続
- (3) 明浄学院高等学校との統合後、衛生看護科メディカルサイエンスコースは、普通科看護メディカルコースに改組
- (4) 大阪阿倍野キャンパス AINO NURSE ISLAND 構想の検討

【明浄学院高等学校】

- (1) 学校法人藍野大学に設置者変更
- (2) 普通科看護メディカルコースを設置
- (3) 明浄学院高等学校の校地に新校舎竣工

(赤字部分は追記事項)

ロードマップ 2024～2030



※大阪富田林キャンパス (OTC) は2024 閉校

※上記各計画のスケジュールは今後の検討状況により変更となる可能性があります。

財務戦略

ビジョン達成に向けた財務戦略

将来構想計画「AINO VISION 2030 Vol.2」は、3つの重要施策（基本方針・経営方針・管理運営と理事会改革）を2023（令和5）年1月開催の評議員会・理事会において議決しました。今後、この構想の具体化と推進には、それぞれの組織や個人の在り方が問われ、利害が関わってくるほど合意形成と改革の推進に困難も予想されますが、経営・教学・事務局が協働し築き上げた「経営方針」を学校法人全体で力を合わせて推し進めていきます。



学校法人藍野大学 副理事長
山本嘉人
総合計画・事業推進
財務運営統括執行者

基本方針

本法人は、施策の実施と将来投資を実現するための財政基盤を確立するため、中長期財政計画に掲げる数値目標、日本私立学校振興・共済事業団が示している「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」（以下、「経営状態の区分」という）に記載された区分および同規模、同系列の他大学や日本私立学校振興・共済事業団発行の「今日の私学財政」上の指標をもとにマネジメントすることを基本方針としています。

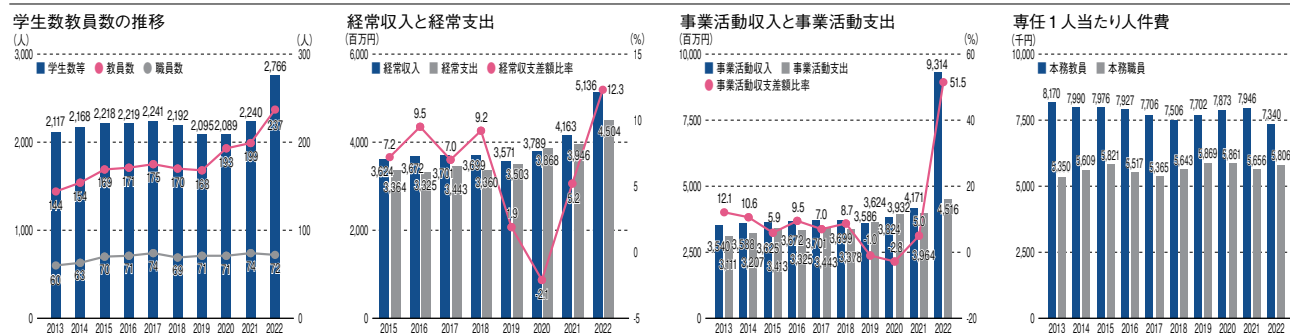
経営方針

「教育資源の選択と集中」、「教学の主体性尊重と法

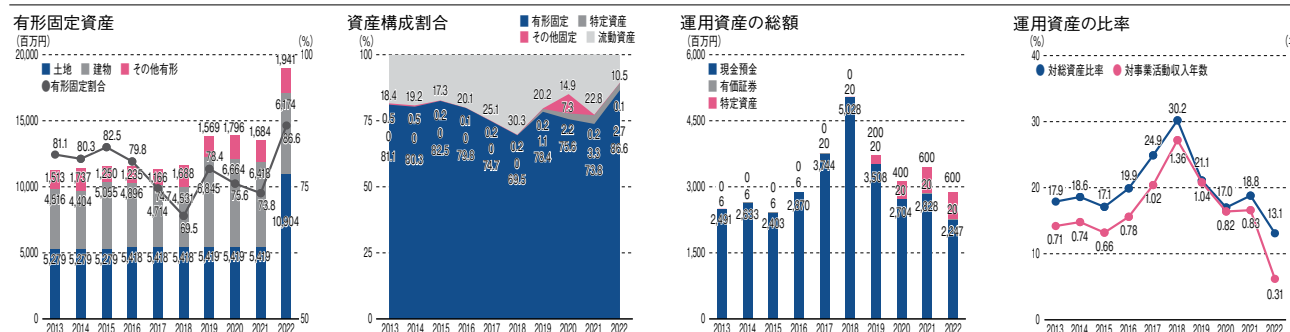
人ガバナンスの強化」、「組織強化のためのマネジメント推進」、「安定経営基盤の確立」の4本柱を「経営方針」として掲げ、設置校を構成する教育・事務職員の実践活動における具体の改革と将来構想計画を結びつけることで将来に向けて磐石な基盤整備を目指します。

また、経営方針の指針となる中長期財政計画「AINO Financial Plan 2023-2030」では、日々刻々と環境が変化する時代において現況を見極め、中長期財政計画に掲げる数値目標・指標をもとに財務・非財務の2軸によるマネジメントを推進し、より適切な経営判断を行うことを基本方針とします。さらに、計画や目指す姿に対して逐次精査し、財政基盤も財政収支も安定的に統制し、ステークホルダーおよび社会の期待に応えるために教学における積極投資や施設の充実を学校法人理事会・評議員会が合理的に判断して充実させていきます。

本法人の事業活動収支の概況



本法人の貸借対照表の概況



経営力の強化に向けて

本法人の予算は、策定している中期財務計画に基づき執行しています。この中期財務計画は、過去の実績および設置校ごとの個別戦略を考慮した着地見込みを勘案し、「経営状態の区分」における正常状態の「A3」を目標に作成され、状況変化が生じたときや予算編成時、決算確定時に更新されています。既定の予算に基づき予算執行することで、当該年度の教育研究活動を着実に遂行し、将来計画のための財政基盤を確保することが可能となっています。

毎月の全設置校の学生生徒在籍者数および月次資金収支計画書について法人事務局経営企画センターから、各設置校の管理職教職員、常務理事、副理事長および理事長で構成する合同運営委員会に報告が行われ、現状を共有することで適時適切な予算執行を各権限者が行うことができる仕組みとなっています。さらに、より適切な経営判断を行うことができるよう、予算・決算の

都度入学定員充足率、収容定員充足率等をもとに各設置校のセグメント別事業活動収支計算書を作成し、理事会・評議員会においてその推移と課題をも含めた分析結果を報告しています。

その結果、2008年度には経営状態が当時の指標でレッドゾーンとされる「B4」だったものが、2013年度には正常状態である「A2」まで回復し、その後2021年度まで「A3」、2022年度には再び「A2」となり、安定した経営状態を保持し続けることができました。

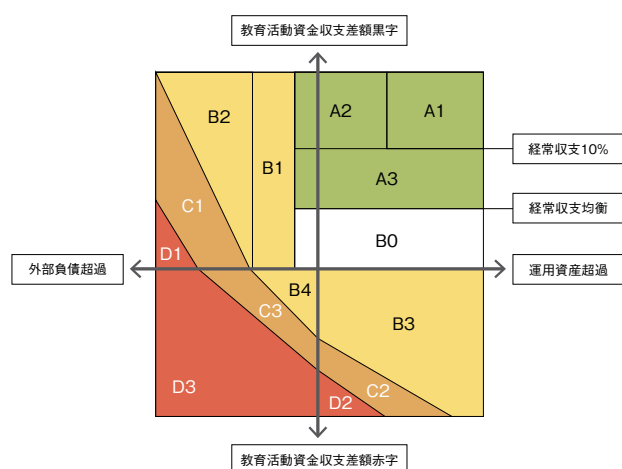
安定的な財務基盤の確立を目指す

大阪阿倍野キャンパスプロジェクトおよびびわこ八日市キャンパスの施設整備計画満了後も、2025年度には藍野大学・大学院の2研究科2学部5学科1専攻科への改組転換など大きなプロジェクトが予定されています。AI・IoTの急速な技術発展、withコロナ時代など刻々と環境が変化する時代ではありますが、財的資源を多様な経営指標に基づき実態把握を行うことにより、経営計画や目指す姿を注意深く見極め、経営戦略の視点からの課題・目標を策定することで、教育資源（人的資源・物的資源・技術的資源）および財的資源を効果的に活用し、創基60周年（2028年）以降もさらに発展するための安定的な財政基盤を確立することを目指します。

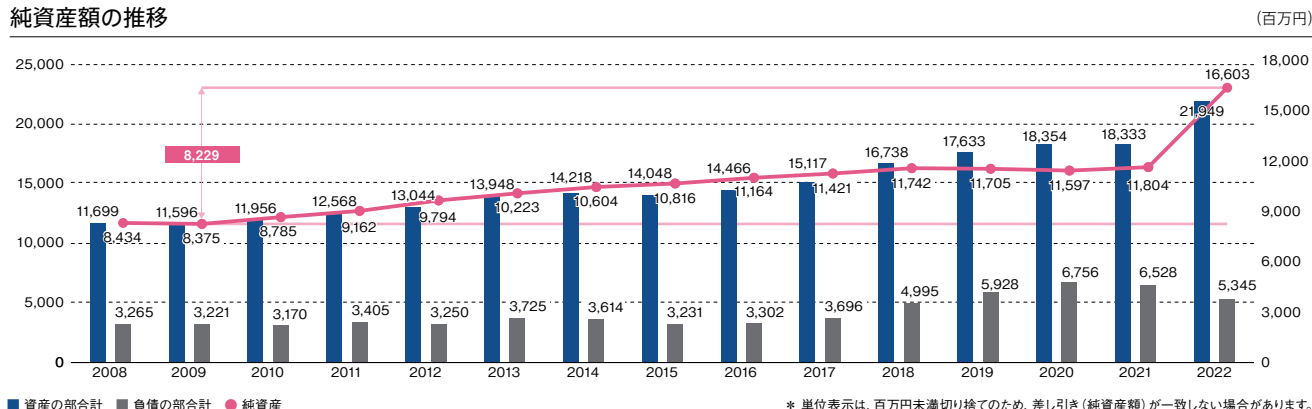
なお、本法人は、本法人とステークホルダーとのコミュニケーションを深化させ、本法人への理解促進と持続的な相互支援体制づくりを行うため、他大学に先立って2022年度から財務情報と教育や研究など、非財務情報の創出する価値等を「AINO VISION 2030 REPORT」として開示しています。引き続き、安定的な財政基盤を確立し、様々な協創を通じて地域社会に貢献できる学校法人としてさらなる発展を目指します。

定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）

※ 2015年度から（出所：日本私立学校振興・共済事業団）



純資産額の推移



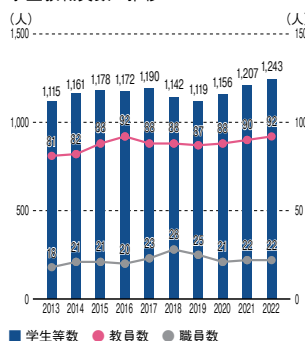


藍野大学 学長
佐々木 恵彦

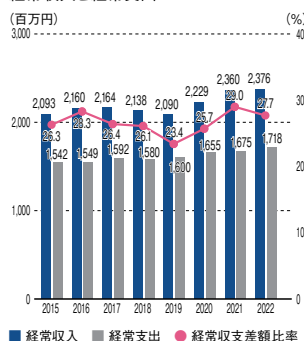
藍野大学は2004年の開学以来、シン・メディカル理念に基づく独自の多職種連携教育を推進し、日本の医療に貢献する数多の人材を育成・輩出してきました。その成果は、本学の卒業生に対する社会の高い評価に結実しています。しかし藍野大学の真の優位性は、学校法人が設立されて以来の長い歴史に培われた実績と信頼にあります。これからも、本法人の他の設置校、医療関係者、地域社会など、様々なステークホルダーとの協創を通じて、新たな価値を創造し、わが国の医療の発展と健全で豊かな社会の構築に貢献してまいります。

セグメント情報（事業活動収支の概況）

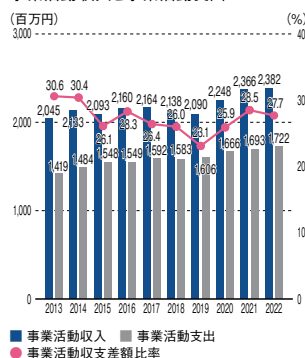
学生教職員数の推移



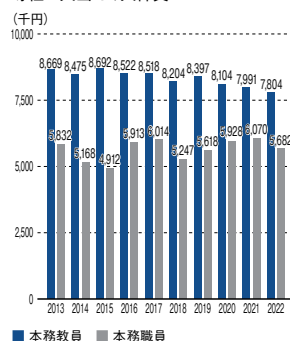
経常収入と経常支出



事業活動収入と事業活動支出



専任1人当たり人件費



藍野大学の存在意義と特色

いま大学の運営は歴史的な変革期を迎えています。少子高齢化の進展により大学の募集と運営が厳しさを増す一方、どのような価値を社会に提供しているのか、すなわち大学の存在意義が社会から厳しく問われるようになりました。藍野大学の存在意義とは何か。それをご説明するためには、まずミッションとビジョンについてお話ししなければなりません。

藍野大学は学校法人藍野大学の中核校として2004年に開学しました。開学にあたっては、学校法人藍野大学の建学の精神である「愛智精神〔Philo-sophia〕にもとづく人間教育」と教育理念である「Saluti et solatio aegrorum (病める人々を医やすばかりでなく慰めるために)」を踏襲したうえで、「文化の向上と医療および福祉の進歩に寄与し得る有為な人材を育成すること」を教育の目的として掲げました。また2023年には、「BE NEXT TO YOU ～人の想いに応え、こことからだ、そして生活を支える医療人へ～」を教育スローガンとして打ち出し、教育と研究に懸ける本学の姿勢を明文化しました。

藍野大学は、建学の精神と教育理念に基づくシン・メディカル (Sym-Medical) という考え方を基軸に教育・研究活動を行っています。私は2022年の学長就任後すぐにシン・メディカルの再検討作業を行い、＜様々な専門職が対話と議論を重ね協働するなかで、患者中心の医療を実現していく新しい医療の在り方＞と定義し直しました。現在、世界の医療現場では、Patient (患者) から Person (ひと) へと、新たな動きが顕在化しています。また、超高齢社会の到来や生活習慣病の増加をはじめとする疾病構造の変化を背景に、病気を治す医療から生活を支える医療への転換が強く求められるようになってきました。藍野大学は、様々な専門職が緊密に協働し、「ひと」の人生を支えていく、そうした医療を追求し、体現する医療人の育成を目指しています。私たちはここでご紹介した建学の精神、教育理念、教育スローガン、シン・メディカルの理念などを総称して＜藍野フィロソフィー＞と呼び、開学以来のDNAとして堅持し、次代へ継承してまいります。

AINO VISION 2030 の活動状況

学校法人藍野大学はいま、法人運営のさらなる改善・充実に向けた将来構想計画 AINO VISION 2030 の着実な進捗に全学を挙げて取り組んでいます。内部質保証の実質化と教学マネジメント推進体制の構築を根幹とする本構想は、本法人が今後も継続的に発展していくための必須の取り組みです。藍野大学もその一翼を担う存在として、＜4つの力＞を基盤に本構想の進展に力を注いでいます。

＜4つの力＞とは、【教育力】【研究力】【募集力】【連携力】という高等教育機関が備えるべき基本的な力を指します。教育力の指標である国家試験の合格状況を見ますと、2022年度は全学科で一人だけ不合格となりましたが、これは全国的に見ても非常に優れた成績であったと振り返っています。理学療法士試験では全国3位となる88名の合格者を出し、看護師国家試験では2年連続で100%の合格率を達成しました。

研究力については、2023年度の科研費（科学研究費助成事業）配分額ランキングにおいて、私立大学約560校のなかで239位のポジションを確保しました。また科研費で採択された研究の女性研究者比率において、藍野大学は国公立を合わせた全大学中で第2位となりました。わが国において女性教員、女性研究員の増員が喫緊の課題として浮上しているなか、本学の高い女性比率は教育・研究分野のダイバーシティを象徴する事例として各方面から大きな注目を集めています。

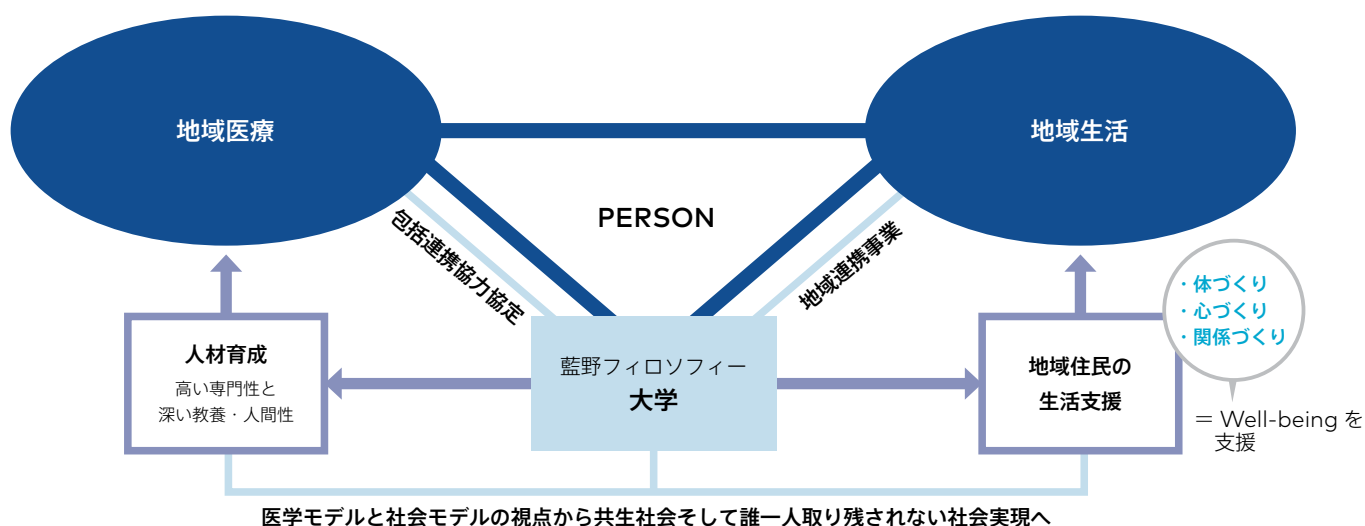
18歳人口と医療職志望の学生数が減少しつつある現在、募集力も大学存続の成否を分けるきわめて重要な要件です。充実した教育・研究体制を確立していても、募集力がなければ大学は競合のスタートラインに立つことができません。私たちは学部・学科の新設や多彩なメディアを通じた情報発信など、募集力の強化に向けた取り組みを推進していますが、これについては章を改めてご説明したいと思います。

連携力については、京都、大阪を中心とした2法人7病院や藍野大学が本部を置く茨木市と包括連携協定を締結して価値協創の取り組みを進めているほか、8校の高等学校と高大連携協定を結び、幅広い学びの場の提供と相互交流の活発化に努めています。また藍野大学の教員が地元企業と共同で行う地域連携プロジェクトへの支援を通じて、地域社会の健全な発展に貢献しています。藍野大学は今後も＜4つの力＞の一層の拡充を通じて AINO VISION 2030 の具現化を追求してまいります。

学部・学科・コース等の設置構想について

藍野大学は、本学、地域医療、地域生活の3者で構成される高等教育の次代の在り方を「藍野モデル*」として提唱しています。また藍野モデルを進化させる取り組みのひとつとして、中長期を視野に入れた学部・学科・コースの設置構想を策定し、現在、既存組織の改組と新たな学部・学科の開設に向けた準備作業を進めています。

* 藍野モデル



学部に関しては、現在の医療保健学部から看護学科を独立させるとともに、医療保健学部のなかに健康科学学科を新設します。既に文部科学省に対して事前相談資料を提出しており、2025年には2学部5学科1専攻科の新体制がスタートする予定です。健康科学学科は地域生活の支援を教育・研究のメインテーマに、Well-being（次章で詳述）のあるべき姿を追求していく新学科となります。大学院に関しては既に健康科学研究科の設置が認可されており、2024年4月より看護学研究科と健康科学研究科の2研究科体制が始動します。学部の新設・改組と大学院の改編を同時に行うことで、学生の進路決定はより整合性の取れたものになるでしょう。大学院についてはまた、看護学研究科のなかに助産師課程と教職課程（専修免許状取得）を設置する計画です。附置機関については、藍野モデルの実効性向上を見据えて、未来医療教育協創センター（仮称）や生命機能情報科学研究センター（仮称）、地域健康創生センター（仮称）などの設置準備を進めています。

近年、わが国の私立大学では、経営基盤の強化策として、学生を安定的に確保できる看護学部の新設を決定するケースが多くなりました。しかし私たちは学部・学科等の改組や新設を、学生募集を強化するための手段とは考えていません。藍野フィロソフィーおよび藍野モデルで掲げた理念を現実化し、藍野大学が提供する社会価値の最大化を図ること、その取り組みの一環として本設置構想を位置づけています。新たな体制がスタートしても、学部や学科、職種の枠を超

えた教育を目指すシン・メディカルの理念はしっかりと引き継いでいきます。

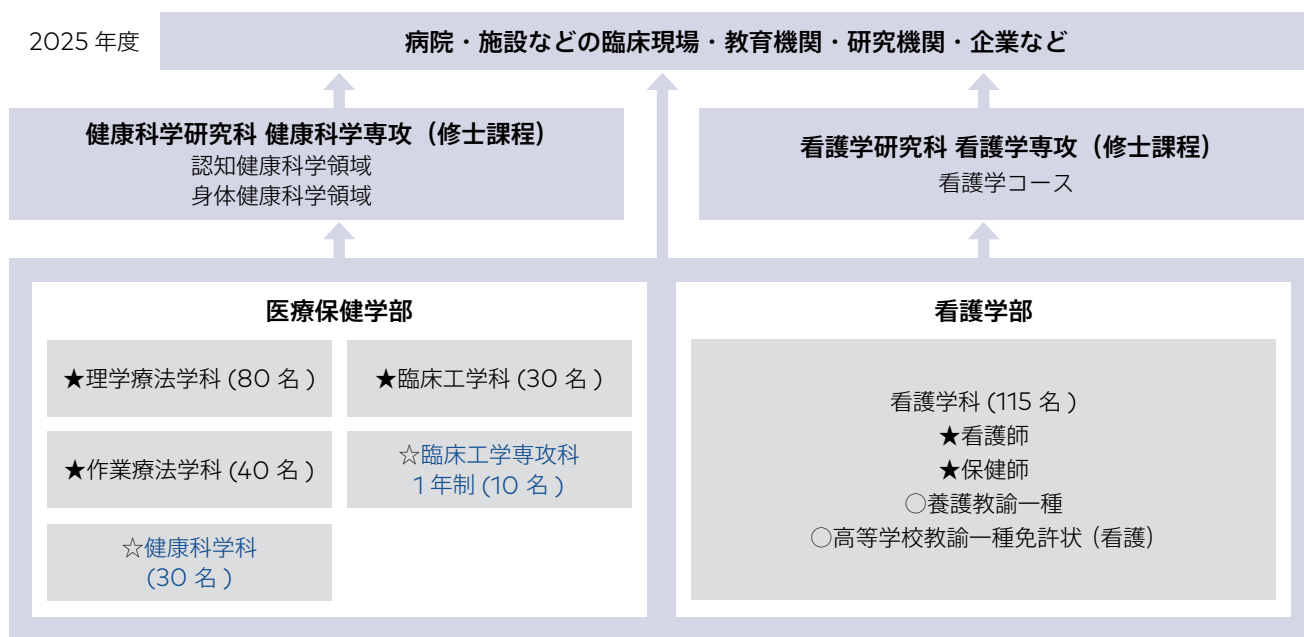
社会連携・地域貢献の取り組みと成果

前述した通り、藍野大学は北摂エリアの病院と包括連携協定を締結し、地域医療の進展と地域にお住まいの方々のより良い生活の実現に注力しています。この地域連携における藍野大学の姿勢は、Well-beingという言葉に集約することができるでしょう。Well-beingとは、WHO（世界保健機関）がその憲章で定義したように、身体的健康、精神的健康、社会的健康を包摂する幅広い概念です。藍野大学は市民公開講座などを通じて積極的な啓蒙活動を行うとともに、地域住民の Well-being に貢献する多彩な取り組みを推進しています。

とくに力を注いでいるのが社会的健康のサポート活動です。近年、少子高齢化と健康寿命の長期化を背景に、高齢者の孤立が重大な社会問題となっています。藍野大学では、多彩な職種の専門家が協調して、お年寄りの孤独感の解消と住民同士のつながりの回復に努め、誰もが安心して暮らせる地域社会の形成を目指しています。

藍野大学の卓越した連携力は、卒業生に対する社会の評価に表れています。現代医療は、医師・看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・臨床工学技士など様々な医療従事者が連携し、協力してこそ本来の使命を果たすことが可能ですが、同時に医療に携わる

設置構想



★→国家試験受験が必要 ○→教員免許 ☆→新設学科・新設専攻科 学部定員 305人

多くの人が、こうしたチーム医療が必ずしも円滑に機能していないことを指摘しています。多彩な専門職が協働して患者さんの命と健康を守っていくチーム医療、その実効性ある推進体制を確立することが多くの医療機関に共通する重要命題となっています。

こうした状況のなか、藍野大学の卒業生に対する医療関係者の評価が近年、一段と高まってきました。コミュニケーション能力が高い、協調性に優れている、チームのために献身してくれる、優れた専門能力がある、こうした声が連携病院からも多数寄せられています。藍野大学はシン・メディカルの理念を教育・研究活動の中心に位置づけ、他者との議論や協調を通じて課題解決能力を養う多職種連携教育を実践してきました。より良い社会の実現に寄与する医療人になること、地域住民の Well-being に貢献できる人間になること、そうした強い思いが本学の卒業生のなかに脈々と息づいていることを実感しています。

藍野大学はこれからも、医療機関や地域社会との連携をさらに深化させるべく、藍野フィロソフィーを基軸とするディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを策定・実行し、Well-being に真摯に向き合う心豊かな人材の輩出に努めてまいります。

対処すべき課題と今後に向けての改善計画

最大の課題は、募集力のさらなる強化だと考えています。前述した通り、18 歳人口の減少や医療職志望者の減少に加え、看護を主体とした大学・学部の新設が、藍野大学の募集環境を悪化させる恐れがあります。また、医療系の大規模校は大学経営の安定化を図るため、指定校推薦や公募入試を通じて早期に学生を確保する方向にシフトしており、学生数の充足に向けた競合が一段と激しさを増しています。こうした情勢のなか、本学が将来にわたり着実な発展を継続していくためには、教育・研究内容の一層の高度化を図ると同時に、本学の特色や優位性を広く社会に向けて訴求していくことが欠かせません。

藍野大学は 2023 年に初めてテレビコマーシャルを放映し、一定の評価をいただきましたが、その効果はいまだ限定されたものだとして認識しています。大学の学生は 4 年ごとに完全に入れ替わり、保護者の世代も次第に移っていきます。大学関係者が依拠してきた旧来の医療観、教育観、期待する学生像などの様々な価値観は、SNS に慣れ親しんだ現代の若者の心にはもはや響かなくなっており、その溝を埋めること

が学生募集における重要課題となってきました。藍野大学は今後、ネットとデジタルを活用して大学の魅力を積極的に訴求するとともに、ブランド力を高めるための各種施策を導入し、多くの学生に選ばれる大学を目指していきます。

また、【教育力】【研究力】【募集力】【連携力】のひとつでも欠落すれば、現在の大学経営は成立しません。藍野大学は AINO VISION 2030 の進捗において、教育・研究体制の高度化や社会連携力の強化に顕著な成果を残してきました。これから先は、募集力をさらに磨き、広く社会や若者から注目される大学となることで、藍野フィロソフィーを大学運営のなかに具現化していきたいと考えています。

ステークホルダーの皆様へのメッセージ

私が 2022 年 4 月に藍野大学学長に就任してから約 2 年が経過しました。この間、シン・メディカルの再定義、＜藍野フィロソフィー＞の確立、＜4 つの力＞の提唱、＜藍野モデル＞の策定、教育・研究体制の再編など、藍野大学の抜本改革に向けた様々な取り組みを推進してきましたが、新たな大学像を確立するための変革は端緒についたばかりであり、いまだ道半ばだと受け止めています。文部科学省は 2030 年の 18 歳人口を約 103 万人、2040 年の同人口を約 88 万人と試算しています。本学の運営環境は一段と厳しいものとなるでしょう。藍野大学は常に変わり続け、進化し続けなければなりません。

持続可能な開発目標 (SDGs) の採択文書のタイトルは「Transforming Our World」。すなわち、私たちの世界を変革する、というものです。藍野大学も激変する外部環境のなかで独自の存在感を発揮するために、ステークホルダーの皆様とともに変革の取り組みを加速し、医療系大学の未来像を創出していきます。2024 年は変革への意思を明確化したキャッチフレーズ「Transforming Aino Blue - 変革する藍野大学 -」を策定し、大学運営の指針とする予定です。

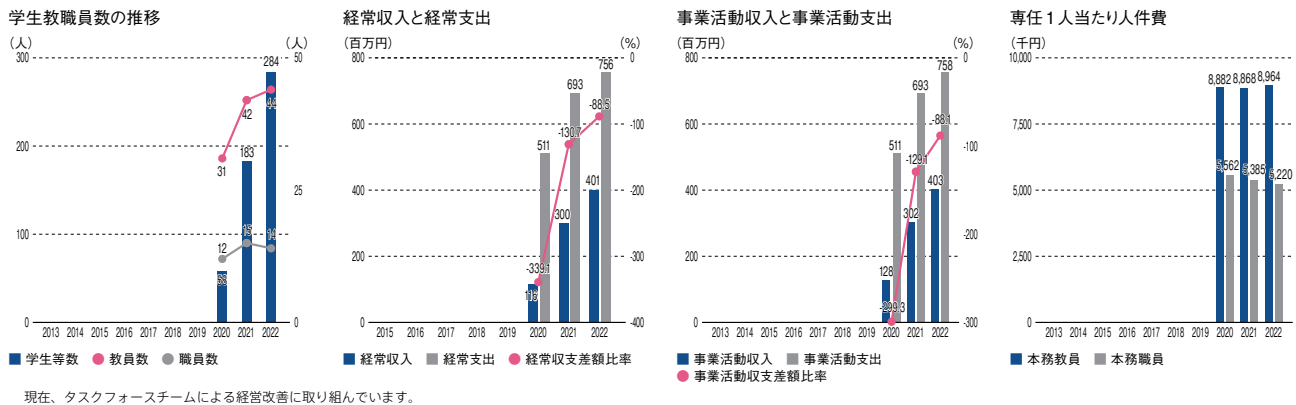
ミッションとビジョンの確立に邁進した 2 年間を終え、藍野大学はいま変革と進化の新たなステージに立とうとしています。わが国の医療の進展に尽力されている医療関係者の皆様、地域社会の皆様、本学の卒業生と保護者、その他あらゆるステークホルダーの皆様と緊密な関係を維持しながら、藍野大学と日本の医療の未来を切り拓いていく決意です。皆様におかれましては、引き続き本学に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



びわこリハビリテーション
専門職大学 学長
角野 文彦

びわこリハビリテーション専門職大学は、1996年に滋賀医療技術専門学校として開学して以来、優れた技能を持つ多くの理学療法士、作業療法士を育成してきました。2020年に同校の改組により新たな歴史を刻み始めた本学は、2024年4月に言語聴覚療学科を新設、従来の理学療学科、作業療学科と併せ、リハビリ系国家資格を取得できる滋賀県唯一の大学となっています。2024年4月に学長に就任した私は、公衆衛生医師として、滋賀県の職員として培ってきた経験と知見を活かして、本学のさらなる発展に尽力していく所存です。

セグメント情報（事業活動収支の概況）



学長就任にあたって

私は滋賀医科大学を卒業後、公衆衛生医師として滋賀県の保健医療行政に携わってきました。また母校の特命教授を務めるとともに、日本公衆衛生学会の理事としてわが国の医療と福祉の増進に尽力してきました。そうした経験のなかで痛感したことは、地域の医療を担う人材、とくにセラピストや看護師が質的にも量的にも不足しているという現実です。県民をはじめ、すべての人びとが安心して暮らすことのできる社会を構築するためには、優れた保健医療人材の養成と地元への定着促進が欠かせません。びわこリハビリテーション専門職大学はこうした社会のニーズに応える貴重な存在と言えるでしょう。

アカデミアの出身ではない私が学長に起用された背景には、本学と地域社会のつながりをさらに深化させたいという学校法人藍野大学の方針があります。現在、各種セラピストは医療機関を主な活動の場としていますが、心身の癒しを必要としている人たちは、この社会に広く存在しています。例えば企業内診療所にリハビリテーション部門を設けることができれば、より多くの人

びとが健康で安心・安全な毎日を送ることができるようになります。それは同時に、本学卒業生の進路をより多様化することにもつながるでしょう。セラピストの活躍の場を拡げていくこと、そして本学の社会価値をさらに高めていくこと、それが私に託された最大の使命だと感じています。

滋賀県は地域医療構想を含む「滋賀県保健医療計画」を策定・推進しており、直近では2022年に中間見直しを行いました。地域医療の方向性と具体的な取り組みを盛り込んだこの計画は、県内の医療機関のみならず、本学のような医療福祉系の教育機関にとっても、組織運営の指針となるものです。滋賀県の保健医療行政を熟知した私が学長に就任することによって、本学のあるべき姿とそのプロセスを正しく描き、教職員に周知徹底することが可能になります。トップマネジメントと教職員、そして学生のベクトルを統一化し、共有していくことが本学のさらなる進化にとって最大のテーマだと捉えています。私は本学の新たな時代を切り拓くリーダーとして、「学生ファースト」の姿勢を堅持しながら、本学の健全な運営に全力を傾注してまいります。

びわこリハビリテーション専門職大学の存在意義

私はこれまで、保健医療行政に携わる者として、外部より、本学の前身である滋賀医療技術専門学校時代から、その取り組みと卒業生の活躍を見てきました。滋賀県の保健と医療の現場で働く滋賀医療技術専門学校の卒業生は、誰もが真摯に日々の業務に邁進し、豊かな地域社会の実現に貢献しています。その基本姿勢は現在のびわこリハビリテーション専門職大学にもしっかりと継承されています。卓越した技術や知見だけでなく、豊かな人間性と探究心を備えたセラピストを育成し、社会に送り出していくことが本学の変革することのない目標です。

重症心身障害児施設「びわこ学園」の創設者であり、社会福祉の父と呼ばれる糸賀一雄氏は「この子らを世の光に」という言葉を残しました。社会福祉とは、障害のある人たちを助けることではなく、障害のある人たちが自ら輝き、社会の発展を牽引する人間へと成長していく、その支援をすることだという信念がこの言葉には込められています。私は糸賀一雄氏の精神と、人間愛と探究心を備えた医療従事者の育成を謳った学校法人藍野大学の建学の精神は、根本において共通していると感じています。心身に課題を抱えた人たちに寄り添い、その生き方や価値観を受け止めながら、より良いQOL（生活の質）の実現に取り組んでいく。こうした取り組みに専心する有為な人材を輩出することが本学の存在意義だと考えています。

本学はまた、医療の現場において他者と良好な関係を構築できる協調性あるセラピストの養成を教育方針のひとつに位置づけています。近年、わが国の医療現場では、様々な専門職が協力して治療や施術を行うチーム医療が主流となってきました。理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）のいわゆる「POS」と医師、看護師が緊密に連携し、患者さまの心身の機能回復に努めていく。その一翼を担う人材を育成することが保健医療系の高等教育機関にも強く求められています。本学は2024年3月、びわこリハビリテーション専門職大学として初めての卒業生を社会に送り出しました。学校法人藍野大学が推進してきた愛智精神にもとづく人間教育の成果が、本学で学んだ学生たちの生き方を通じてより鮮明になっていくことを確信しています。



びわこリハビリテーション専門職大学
びわこ八日市キャンパス
2024年に東近江市の中心市街地八日市駅前に新たなキャンパスを開設しました。同キャンパスでは、学生への学問の提供だけでなく、地域連携拠点として地域と大学をつなぐ様々な試みを行う予定です。

AINO VISIONの具現化に向けた取り組み

学校法人藍野大学はいま、法人の中長期的な方向性を明示するAINO VISION 2030の取り組みを進めています。本ビジョンの諸計画を着実に推進していくためには、各設置校のトップだけでなく、すべての教職員がその理念と目標を理解し、共有することが欠かせません。本学においても、マネジメントからの適切な情報発信と教職員同士のディスカッションを通じて、ビジョンの趣旨の浸透を図るとともに、全学一体となった推進体制の確立に力を注いでいく方針です。また、すべての教職員が共通目標に向かって自発的に活動できるよう、自由に意見を交換できる開かれた風土の醸成や職場環境の改善にも積極的に取り組んでいく考えです。

AINO VISION 2030の諸目標の達成には、本法人の他の設置校や地域の医療機関と強固な協力関係を構築し、新たな価値の協創に向けた取り組みを加速することが不可欠です。とくに藍野大学の研究機能には大きな期待を持っています。本学は専門職大学という名称の通り、セラピストの育成を目的とした実践的な教育に軸足を置いています。しかし、日進月歩のリハビリテーションの世界では、医療に関わる技術や知見が日々更新され、診療現場に投入されています。藍野大学が最先端の研究活動を通じて蓄積した知識、技術、知見を本学の教育内容に反映させることで、学生たちの向上心に応えていきます。

ここ数年、18歳人口の減少が顕在化するなか、医療系大学・学部の新設が相次ぎ、本学の経営環境も一段と厳しさを増してきました。そうした状況下で定員の充足を図るためには、大学の魅力を高め、それを広く社会に発信していくことが欠かせません。本学は、実践教育を担う専門職大学という形態の特長と強みを活かしながら、人間性と専門性を重視した教育を継続し、社会価値の一層の拡大を追求してまいります。また、いまだ社会的認知度が低い作業療法士や言語聴覚士の役割について幅広い啓発活動を展開し、セラピストや医師、看護師がチームを編成して行うリハビリテーションの有効性について、医療系の大学・専門職大学、短期大学、専門学校を志望する受験生の関心を喚起していきたいと考えています。

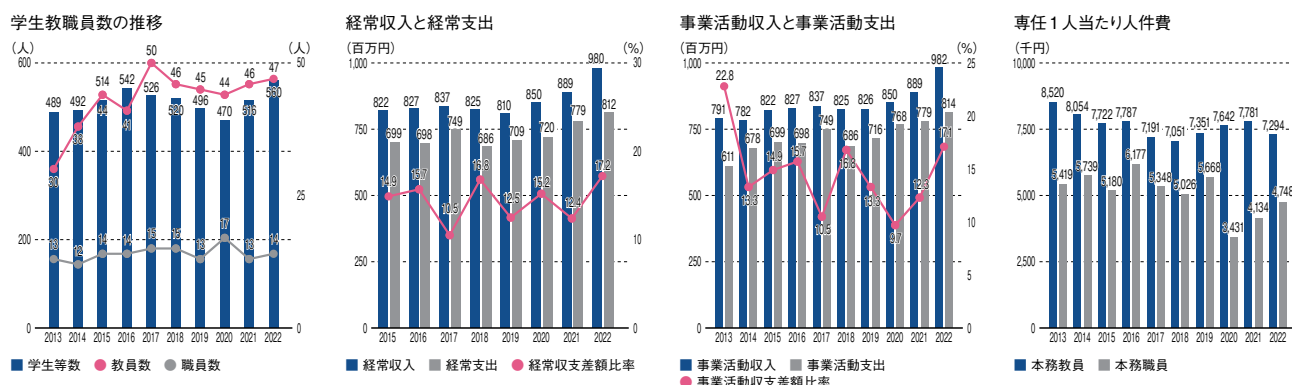
世界保健機関が1986年のオタワ憲章で提唱したように、ヘルスプロモーションの最終目的は、人びとのQOL向上に貢献することです。すべての人が自分らしく生き生きと人生を送るために、私たちに何ができるのか。本学はこの問いかけを出発点に、優れたセラピストの養成に取り組み、継続的な発展を達成してきました。これからも、人間性と専門性の両立を重視する独自の教育を通じて、誰もが安心して暮らすことのできる持続可能な社会の形成に貢献してまいります。



藍野大学短期大学部 学長
足利 学

藍野大学短期大学部は学校創設から40年近くにわたり、学校法人藍野大学の建学の精神を継承しつつ、わが国の地域医療の発展に寄与する数多くの人材を育成してきました。卓越した専門性と豊かな人間性を兼備するとの本学卒業生への高い評価は、私たちの誇りであり、同時に大学運営の貴重な指針でもあります。2025年4月、藍野大学短期大学部は大阪市阿倍野区に新キャンパスを開設し、新たな一步を踏み出します。今後も進路選択における多様性の確保や地域社会との価値協創など、高等教育機関としての役割をしっかりと果たしながら、チーム医療の中核を担う看護師や保健師の輩出に努めてまいります。

セグメント情報（事業活動収支の概況）



藍野大学短期大学部の存在意義と特色

藍野大学短期大学部は1985年の創設以来、学校法人藍野大学の建学の精神である「愛智精神〔Philosophia〕にもとづく人間教育」を実践しつつ、わが国の医療・福祉の発展に貢献する多くの人材を育成・輩出してきました。現在は、看護師を目指す第一看護学科と第二看護学科、保健師を目指す専攻科(地域看護学専攻)の体制のもとで幅広い専門教育を行っています。

本学は2023年4月に「柔軟性のある人へ」を新たなスローガンとして掲げるとともに、「傾聴力と説明力」をサブタイトルに設定しました。看護師や保健師はチーム医療の一翼を担う存在であり、同時に患者さんや利用者さんの心に寄り添う大切な役割を果たしています。その使命を全うするためには、他職種のスタッフや対象者さんの意見に真摯に耳を傾けるとともに、看護の方針や内容を誠実に説明することが欠かせません。また日々、医療が進化し高度化していくなかで、自身の技術を磨き、周囲の状況に合わせて自分の行動を変えていく柔軟性も必要です。看護師や保健師のあるべき姿に対する私

たちの強い思いを、この新しいスローガンに託しました。

本学のカリキュラム上の特長は、看護師や保健師の国家資格取得に向けた実践教育に加え、医療人としての素養と見識を高める各種プログラムを用意していることでしょう。第一看護学科・第二看護学科に「人間関係論」、専攻科に「家族相談援助論」を設定しているほか、メンタルヘルス・マネジメント®検定試験や福祉住環境コーディネーターの資格取得を目指すための対策講座を開講し、学生の多様なニーズに応えています。

看護師や保健師が今後の地域医療、地域保健をリードしていくためには、専門的な知識・技術だけでなく、卓越した人間力が欠かせません。人間力は、様々な職種のメディカルスタッフと緊密に連携して患者さんや対象者さんに安心をお届けする能力を意味します。専門技術と人間力の双方を高める教育システムを確立していることが藍野大学短期大学部の強みであり、社会に提供する独自価値だと考えています。

AINO VISION 2030 の活動状況

藍野大学短期大学部では、AINO VISION 2030 の実現に向けて、様々な取り組みを推進していますが、ここでは大きなトピックをふたつご紹介したいと思います。ひとつは、大阪阿倍野キャンパスの開設です。2025 年 4 月に、現在の大阪茨木キャンパスと大阪富田林キャンパスを大阪阿倍野キャンパスに統合・移転し、教員と事務職員がひとつのキャンパスに集結することにより、これまで以上にスピード感のある学校運営を実現します。また新キャンパスは大阪市街の中心部に立地していることから、通学の利便性向上や学生募集力の強化にも寄与するでしょう。地域社会との連携強化もキャンパス統合における重要テーマです。現キャンパスで実施中の子育て支援の取り組みを新キャンパスでも継続実施する一方、新たに阿倍野区と地域包括連携協定を締結し、草の根的な活動を通じて地域の暮らしと医療の発展に貢献していきたいと考えています。

AINO VISION 2030 の具現化に向けたもうひとつの大きな取り組みは、メディカル・ヘルスイノベーション研究所の活用促進です。短期大学部の附置機関である本研究所は、公衆衛生、メンタルヘルス、子育て・発達支援の 3 領域で先駆的な研究活動を展開しています。特に子育て・発達支援領域では、2020 年に全国で初めて発達障害のある方を対象とした訪問看護事業所「あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーション」を開設しました。本ステーションは短期大学部の実習施設としてだけでなく、藍野大学の実習先としても機能しています。研究拠点、実習拠点、発達障害に関わる啓発活動の発信地など、様々な顔を持つメディカル・ヘルスイノベーション研究所は、地域との価値協創を強化していくためのプラットフォームとなるものと信じています。今後は、短期大学部だけでなく、藍野大学、びわこリハビリテーション専門職大学、明浄学院高等学校などを包摂する学校法人藍野大学の中心的な研究機関として、より良い社会の形成を見据えた研究活動、実践活動を継続していきたいと考えています。

対処すべき課題と今後に向けての改善計画

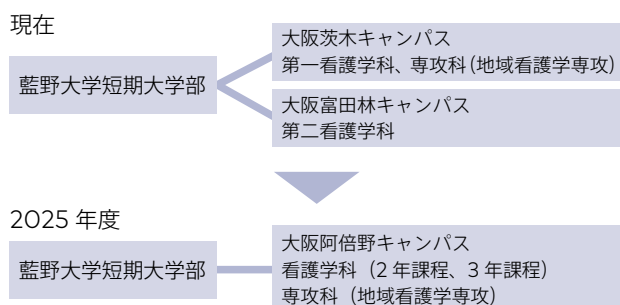
18 歳人口の減少による大学間の競合激化は、藍野大学短期大学部にとっても適切な対応が求められる重要課題となっています。また 4 年制の看護大学・看護学部の新設も継続しており、本学の募集環境は一段と厳しさを増してきました。こうしたなかで、本学がさらなる発展を続けていくためには、短期大学としての独自価値を広く社会に発信するとともに、本学を選んだ学生により幅広い進路の選択肢を提供していくことが欠かせません。こうした現状認識に立脚し、本学はメンタルヘルス・マネジメント®や福祉住環境コーディネーターに加え、人びとの孤独・孤立の防波堤となるゲートキーパーや悲嘆のなかにいる人びとの心を癒すグリーフケア・アドバイザーなど、時代が求める職種への道を拓く新たな教育体制の構築に着手しています。

幸い、本学の卒業生は様々な医療・福祉現場でめざましい活躍を見せ、関係者や地域の人々から篤い信頼をいただいています。特にチームの一員として行動するための協調性や、患者さんや対象者さんの思いに応える豊かな人間性が本学卒業生に共通する美点として評価されています。今後も、こうした有為な人材を社会に送り出していくために、本学は看護、保健、一般教養のバランスの取れた教育プログラムを堅持していきます。

大学・短期大学をはじめとする高等教育機関は、単独で存在するものではありません。学校法人藍野大学の各設置校や学外の教育・研究機関、地方自治体、地域の医療機関と緊密に連携し、社会価値の創造に邁進していくことが医療・福祉を専門とする高等教育機関の使命であり、存在意義だと考えています。

大阪阿倍野キャンパスの誕生を目前に控えたいま、私は藍野大学短期大学部の運営を担うリーダーとして、AINO VISION 2030 の確かな進捗に注力し、本学の価値と魅力をさらに高めてまいります。

組織体制



改善ポイント

- 2つのキャンパスとしての人員的ロス
 - ▶ 事務組織の一元化、両学科教員による講義協力
- 施設の老朽化
 - ▶ 改修工事による新しいキャンパス
- 大阪富田林キャンパスの交通の不便さ
 - ▶ 大阪市内の交通の便（大阪メトロ御堂筋線・谷町線、JR 阪和線、近鉄南大阪線）
- 集客力の低下
 - ▶ 高短大連携の強化（同敷地内にある明浄学院高等学校からの進学メリット）
 - ▶ 看護職養成の拠点【短大・高校】（看護師 180 名、保健師 40 名、准看護師 120 名）



明浄学院高等学校 校長
渡邊 雅彦

1921年に創立された明浄学院高等学校は2022年4月に学校法人藍野大学の設置校となり、次の100年に向けた新たな取り組みをスタートさせました。2024年4月には、AINO VISION 2030の具現化を牽引する施策として、藍野高等学校との統合と男女共学化、衛生看護科の新設といった体制刷新策を断行し、新生・明浄学院高等学校として新たな歴史の出発点になると捉えられています。本校はこれからも、学校法人藍野大学の各設置校や近接地域の高等教育機関と緊密な連携を保持しながら、人間性を重んじる教育を継続し、社会の発展に貢献する有為な若者の輩出に力を注いでまいります。

セグメント情報（生徒募集状況）

	学科	募集定員	専願者	併願者		入学者	募集定員充足率
				受験者	入学者		
令和5年度	普通科	180	145	79	3	148	82.2%
令和6年度	普通科	180	209	160	15	224	124.5%
	衛生看護科	120	153	39	4	157	130.8%

明浄学院高等学校の存在意義と特色

明浄学院高等学校は1921年に明浄高等女学校として設立されて以来、1世紀の長きにわたり、「明（あか）く、浄（きよ）く、直（なお）く」をスピリットに真摯な教育を実践し、数多くの有為な若者たちを世の中に送り出してきました。そして2022年4月には、学校法人藍野大学の運営下に入り、新たな歴史を刻み始めました。藍野大学を筆頭に多彩な教育機関、医療機関を擁する学校法人藍野大学の一員となったことにより、本校で学ぶ生徒の進路に、より多くの選択肢が用意されるようになりました。旧明浄学院高等学校は看護メディカルコースを設置していましたが、多様な進路が用意されている学校法人藍野大学の傘下に入ったことで、2022年4月からは同コースを2クラスに拡充、志望者・入学者も大幅に増加しました。また、経営基盤強化に注力している学校法人藍野大学の設置校となったことで、生徒・保護者の安心感が強まり、地域社会からの信頼を一段と高めることができました。ステークホルダーの皆様からの信頼が新生・

明浄学院高等学校にとってかけがえのない財産となっていることを実感しています。

本校は、学校法人藍野大学の建学の精神と患者中心のチーム医療を目指すシン・メディカルの理念をしっかり継承しながら、智を愛する人間教育の実践に教職員の総力を挙げて取り組んでいます。女子校としてスタートし、発展してきた旧明浄学院高等学校は、勉学を通じた知識の習得だけでなく、人間としての道を大切にする躰（しつけ）重視の学校運営を行ってきました。この姿勢は豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成を重んじる学校法人藍野大学の教育理念と共通するものです。学校創設以来の伝統と卒業生4万人の豊かな実績を基盤に、学校法人藍野大学の揺るぎない理念と優れた教育・研究体制を導入・堅持し、誰もが安心して暮らすことのできるより良い社会の実現に寄与する人材を育成していくこと、それが本校の存在意義であり、変わることのない使命だと考えています。

AINO VISION 2030 の活動状況

学校法人藍野大学は現在、2030 年を見据えた長期構想である AINO VISION 2030 の進展に経営資源を集中的に投入しています。本校もまた設置校の一角として、社会の要請に応える教育体制の構築と進路選択の多様性確保を見据えた取り組みを加速し、理想の高等学校教育の具現化を追求しています。

ビジョンの実現に向けて、本校は 2024 年 4 月に 4 つの新たな歴史的施策を実行します。藍野高等学校との統合と男女共学化、衛生看護科の新設、新校舎誕生、制服リニューアルを同時に行うことは、他に類例のない挑戦だと言ってよいでしょう。藍野高等学校との統合により本校は生徒数各学年 300 人、全体で 900 人の大規模校に進化します。また男女共学化を通じて、多様な社会課題に対応する個性豊かな人材の輩出に取り組むと同時に、社会と医療におけるダイバーシティの進展に貢献していきます。また在学中に准看護師の資格を取得できる衛生看護科を新設し、進路選択の多様性と可能性を拡大します。さらに明るい雰囲気を持った新校舎の誕生や「選べる制服」の導入により、生徒たちの快適な学校生活を支援していきます。

在籍中の生徒とその保護者、あるいは入学希望者を対象とした説明会で、私が繰り返し述べていることは、ここでご紹介したような様々な取り組みを通じて、明浄学院高等学校はまったく新しい学校として誕生するということです。本校はこれまで 100 年を超える歴史を積み重ねてきました。次の 100 年も社会から必要とされる高等学校として発展していくためには、創立来の伝統を固守するだけでなく、運営体制を刷新する新機軸を次々に打ち出しつつ未来の教育のあるべき姿を追求していかなければなりません。この節目の時期に本校に籍を置くことになった生徒たちには、そうした自覚を持って新しい学校の創造に邁進して欲しいと期待しています。私たち教職員も、教育内容の高度化や勉学環境の整備に加え、自由な発想で物事を捉え、社会に新しい価値を付加していくことのできる若者を育てながら、本校の次の伝統を築いていきたいと思います。

対処すべき課題と改善計画

進化の只中にある本校にとって、対処すべき課題は決して少ないものではありません。

第一の課題は、共学校にふさわしい教育体制を早期に確立することです。近年、自分の個性や特性を存分に発揮できる闊達な若者が社会から求められるようになってきました。企業や医療機関の面接、集団面接において自身の考えや希望を明確に伝えることのできる、自立した人材の養成が重要な命題として浮上しています。本校は生徒の多様な進路選択を実現する実効性ある教育体制を確立し、社会の負託に応えていきます。

第二の課題は、大学、短期大学、専門学校との連携強化です。学校法人藍野大学の設置校はもとより、近畿地方に立地する幼児教育系、栄養系、服飾系、IT 系など各種高等教育機関と提携し、卒業生の進路決定をサポートしていきます。

そして第三の課題が、学校法人藍野大学の設置校として、AINO VISION 2030 の着実な進展に注力していくということです。高大接続の担い手として、各設置校へ有為な若者を送り出し、法人内で一貫する高度な教育システムの構築に寄与していきます。また建学の精神とシン・メディカルの理念に立脚した教育を実践し、卓越したコミュニケーション能力と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成に取り組んでいきます。

ステークホルダーの皆様へのメッセージ

学校法人藍野大学の一員となったこと、そして統合・共学化をはじめとする体制刷新の取り組みを推進していることは、いずれも本校にとって歴史に残る変革であり、価値を高めていくための大きなチャンスであると考えています。明浄学院高等学校は開学以来、熱意にあふれた教師陣と充実した指導体制のもとで、心豊かな若者の育成に専心してきました。その成果は、勉学のみならず、全国規模のコンクールでたびたび上位入賞を果たしている吹奏楽部など、文化・スポーツ活動の優れた実績に象徴的に表れています。明浄学院高等学校は今後も、長年受け継がれてきた良き伝統を守りながら、新たな価値創造に向けた挑戦を継続してまいります。

藍野高等学校 志熊校長からのメッセージ



藍野高等学校 校長
志熊 博忠

学校法人藍野大学は、中学校卒、高等学校卒、社会人にかかわらず、どんな年齢の人でも、どんな家庭環境や経済的事情にある人でも、看護師を目指すことができる教育課程を持つ国内でも稀有な学校法人です。

そのなかで、藍野高等学校（衛生看護科）は、高等学校の3年間で准看護師の資格を取得した生徒たちを、藍野大学短期大学部第一看護学科（2年制）に送り出し、5年一貫教育により看護師養成することを教育目標として2007年に設立されました。

藍野高等学校のように3年間で一旦「准看護師」の資格を取れる学校は、全国でもわずか14校となりましたが、藍野高等学校は、開校以来、約1,400名の卒業生を送り出してきました。

さらにこのうち大多数の卒業生は、准看護師の資格にとどまることなく、主として藍野大学短期大学部第一看護学科を経て、現在、看護師として全国で活躍しています。

ところで、藍野高等学校の受験生・在校生および卒業生へのアンケートでは、「なぜあなたは藍野高等学校を受験しましたか?」と尋ねると、9割以上が「高等学校3年間で、准看護師の資格が取れるから」と答えてくれます。

藍野高等学校（衛生看護科）の3年間は、まさしく「自分の夢をかなえる近道」であるとともに、同時に「社会に貢献できる力」と「生きる力」を得る機会に他なりません。

一方で、中学3年生の時に自分の将来の進路を考えたものの、果たしてそれが正しい選択であったのか?と自問自答する生徒もいます。

このような生徒たちにとって藍野高等学校と短期大学部との一貫教育システムは、自分がひとまず高等学校進学時に選択した将来の進路について、在学中に一縷の迷いと不安を抱えたとしても、卒業時に准看護師の資格を得て、あらためて自分

の進路についてもういちど考える機会を得られる仕組みでもあり、看護師を目指す通過点として、高等学校3年間の学びをとおして確認する仕組みでもあります。

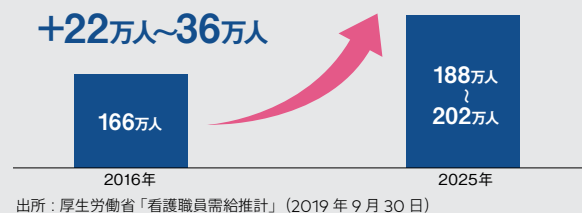
こういった事情から、藍野高等学校は、17年間にわたり中学生・保護者の安定的な支持を得てきました。

さて、1947年～1949年生まれの「団塊の世代」と呼ばれる人たちが、全員75歳以上となる2025年がすぐそこに迫っています。このため医療・介護を含む社会保障全般における対策が喫緊の課題といわれます。

厚生労働省の推計では、医療・介護の現場において看護職が最大27万人不足すると予測されています。

とりわけ大阪府は、看護職員の充足率74.8%(不足数約3万6千人)と推計されています。コロナ禍においても露見したように、とくに在宅医療の現場における逼迫が顕在化するのは、時間の問題と懸念されています。

2025年に必要な看護職員



将来の看護師不足が喧伝されるなか、新生・明浄学院高等学校（衛生看護科）～藍野大学短期大学部（第一看護学科）とつなぐ看護師養成課程は、これからの高齢化社会を支える学校法人藍野大学独自の特色あるカリキュラムであり、確実に社会のニーズにかなう特色あるシステムとして機能していくと考えています。



学校法人藍野大学 大阪阿倍野キャンパス総合整備計画第一期 明浄学院高等学校新校舎およびアリーナ竣工式を挙行

学校法人藍野大学は、このたび大阪阿倍野キャンパス総合整備計画第一期として、明浄学院高等学校新校舎およびアリーナを建設。2024年3月9日、アリーナにて「学校法人藍野大学 大阪阿倍野キャンパス総合整備計画 第一期 明浄学院高等学校 新校舎およびアリーナ竣工式」を挙行し、招待者および本法人教職員約300名が出席しました。

当日は、新校舎とアリーナの施設設計とコンセプトの発表や明浄学院高等学校吹奏楽部によるウェルカム演奏の他、ご来賓の末松信介様（第27-28代 文部科学大臣 参議院議員）からご祝辞を頂戴し、明浄学院高等学校および学校法人藍野大学の今後の益々の発展に期待していただきました。

また、大阪府知事 吉村洋文様および大阪市長 横山英幸様からはビデオメッセージを頂戴し、記念講演として、学校法人藍野大学 内部監査員・アドバイザリーボードメンバーである若狭勝様（元東京地方検察庁特捜部 副部長・弁護士）を講師に迎え、「上位者の責任」をテーマに講演を行いました。

小山理事長は、「学校法人藍野大学の建学の精神、教育理念、ミッションステートメントにもとづく人間教育に立脚した看護師養成課程における一貫教育を行うための『大阪阿倍野キャンパスAINO NURSE ISLAND 構想』の足掛かりとして本総合整備計画の第一期を完了することができ、教職員一同新たな気持ちでスタートを切りたい」と述べました。



明浄学院高等学校吹奏楽部によるウェルカム演奏



会場内の様子

SDGs と地域協創

学校法人藍野大学は、教育・研究だけではなく、社会貢献を基本的な使命として、地域社会、産業界、自治体との協創を推進しています。また、「関西 SDGs プラットフォーム」の会員として SDGs の課題解決に向けた取り組みを積極的に行っています。2023 年度の本法人の SDGs と地域協創への取り組みは、次のとおりです。

学生食堂循環サイクル



学校法人藍野大学は環境省と一緒に学生の手で創出
「学生食堂循環サイクル」を推進しています。

事業名：学生の手で創出「学生食堂循環サイクル」

学校法人藍野大学の大阪茨木キャンパスでは、学生食堂の食品廃棄物由来の液体肥料を用いて水耕栽培を行い、収穫した野菜を学生食堂にて提供しています。水耕栽培装置を食堂内に設置することで、学生・生徒、教職員への循環の見える化が図られることに加え、学生ボランティアが自ら循環サイクルを創出することで、サステナブルな未来を体験することを目指しています。



食品廃棄物由来の液体肥料を活用した水耕栽培



食品廃棄物由来の液体肥料を活用した水耕栽培を行う学生



収穫した野菜を食べる学生

本学は、環境省の以下のモデル事業に採択され食品ロス削減を推進しました。

- ・環境省「令和4年度 地方公共団体及び事業者等による食品廃棄ゼロエリア創出の推進モデル事業等」採択
- ・環境省「令和5年度 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等」採択

図書館の開放

藍野大学が中高生に自習スペースを提供「大学の雰囲気を感じながら集中して勉強を」

藍野大学では、学習スペースの確保が困難な中高生のために、大学生の長期休暇中、藍野大学中央図書館および AINOPIA BUILDING 2階の一部を自習室としてご利用いただけるよう開放しました。

小山理事長は、「中高生に少しでも大学の雰囲気を知ってもらうために複数の場所を開放しました。静かな環境で集中して勉強に取り組んで欲しい」と述べています。



茨木市との協創



藍野大学と茨木市は、「福祉、医療、文化、教育、子育て、スポーツ、環境、産業及び協働によるまちづくり」等の様々な分野において、包括的な連携協定を締結しています。茨木市と共同で進めてきた健康増進事業は地域に根付きつつあるものと推測しており、今後も地域社会に貢献できる開かれた大学として地域発展に寄与することを目指します。

<健康フェアへの出展>

2023年10月、茨木市保健医療センターで「令和5年度 茨木市 健康フェア」が開催され、藍野大学も社会貢献の一環としてブース出展しました。

この催しは、普段なかなか意識できない健康についての意識を高めてもらうため、茨木市内の大学、同市と連携協定を結んでいる企業と協力し開催しているものです。藍野大学ブースでは、健康的な生活に対する意識を高め、様々な病気やケガを未然に防ぐきっかけにいただくため骨密度測定、体組成測定、AGE（終末糖化産物）測定の催しを行いました。



お身体の状態をチェックするだけではなく、適切な運動等のアドバイスをを行いました。

<茨木市との共同研究>

藍野大学は、大学の社会的使命である「研究」に積極的に取り組み、日々の研究活動の質・量の両面で活性化を図ることで、学術研究の高度化に寄与し、その成果を学内外に還元することを推進しています。

加えて、藍野大学が有する研究力や技術力を広く社会に還元し、社会の発展に寄与するために産学官連携による共同研究が推進され、大学は社会的課題を解決に導く知のエキスパートとして、社会的価値を創造しています。

2023年は、「中高年者に対する運動継続が身体機能（骨格筋・呼吸筋）に及ぼす影響（“運動”継続は力なり！-全身の能力アップを目指して-）」を研究テーマとする茨木市との共同研究を実施。運動を継続できるように促すことでwell-being社会の実現が期待できます。



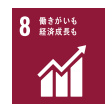
講座とトレーニングをセットで実施することで、正しい知識を身につけ、適切な運動負荷を経験していただきました。

情報インフラネットワークの発展的な利用

ウィズコロナ、アフターコロナ時代に求められるリモート環境の構築による新たな働き方の推進

働き方改革やDXの一環として、教職員にテレワーク用PCを貸与し、どの部署であっても基幹システムや各種ファイルサーバに安全にアクセス可能なネットワークを構築し、遠隔地からも変わらず勤務できるこ

とを実証しました。今後、新型コロナウイルス感染症に限らず、家庭の事情による遠隔地からの勤務や、育児・介護時に自宅での業務、出張先や急な出勤困難時においても業務を可能とし、通勤時間、残業時間の削減を行いながら多様な働き方を可能としました。



学校法人藍野大学のガバナンス

改正私立学校法の施行も見据えつつ、社会からの信頼と期待に応えるために
ガバナンスの強化・徹底に取り組んでいます

ガバナンスに対する基本的な考え方

私立大学は社会から教育研究とその成果の社会への還元という公的使命を負託されており、社会に対して説明責任を負っています。そのため、私立大学の設置者である学校法人は、経営の安定性と継続性を強化して大学の価値向上を実現し、その役割、責務を適切に果たさなければなりません。

私立大学が健全な発展を続けていくためには、時代の変化に即した適切なガバナンスを確立することが必要です。教育研究活動を担う大学等の運営主体として、社会福祉法人制度等の改革状況を意識しつつ、これら公益的な法人と同等以上の透明性と運営の適確性を実現し、社会から信頼され得る存在であり続けることが最重要の命題と言えます。

学校法人はまた、学生、保護者、教職員はもとより、卒業生や地域社会などの多様なステークホルダーに支えられる存在であることから、幅広く内外の声を傾聴し、高い公益性を追求していかなければなりません。

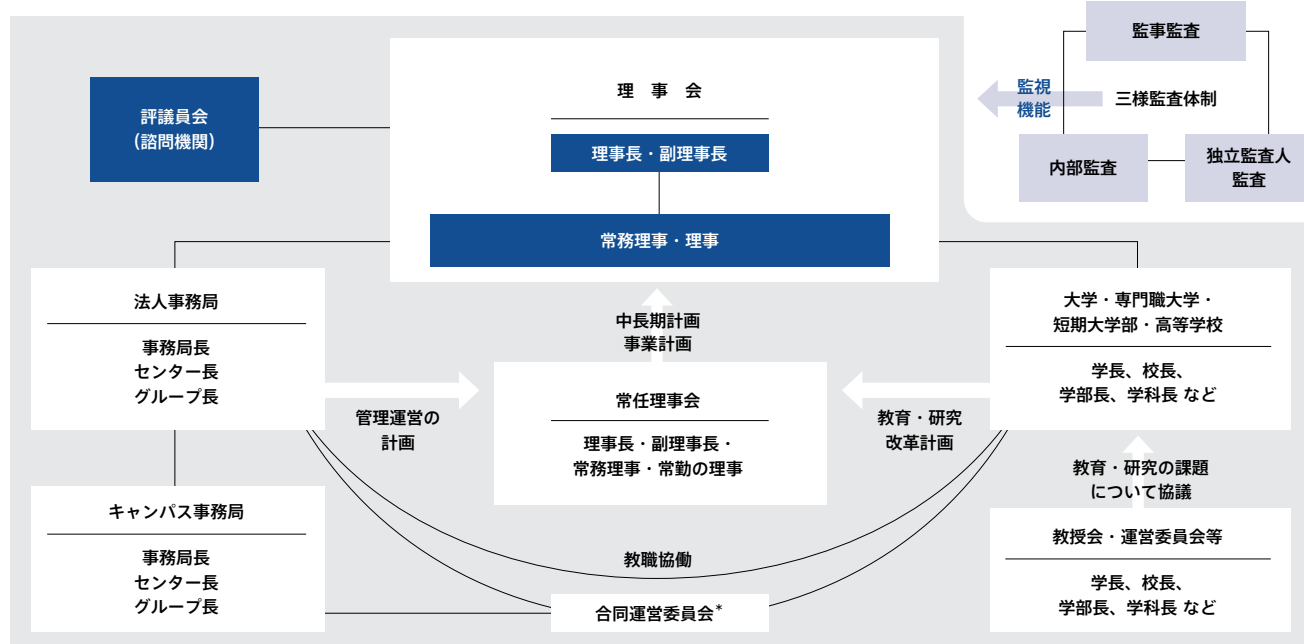
学校法人藍野大学のガバナンス体制と意思決定プロセス

理事会

理事会は学校法人の業務に関する最終的な意思決定機関であり、2023年度は理事11名および監事2名で構成されています。経営、管理運営ならびに業務執行に関する重要事項の審議は隔月で定期的に行われ、また必要に応じ臨時に開催しています。理事長、副理事長、常務理事のほか本法人の身分を持つ理事で構成される常任理事会は、意思決定の迅速化、権限と責任の明確化等を図るため、理事会付議事項および理事会の委任業務について審議・決定しています。

大学法人が社会的責任を十分に果たすうえで、理事会の果たす役割はきわめて重要です。法人が設置する各学校や研究所の経営環境はそれぞれ異なっており、優良部門をいかに伸ばすか、一方で不採算部門をどのように改善し、場合によっては廃止、改組転換していくか、理事長のリーダーシップのもと、これら重要

学校法人藍野大学のガバナンス体制



*各学校および法人事務局間の組織運営、教育（臨床実習）および研究等の諸問題に関する連絡調整および協議を行う。

〈学外評議員の選定方法と期待すること〉

学校法人監野大学の業務、財産状況、役員の業務執行について、広範かつ有益な意見具申ができる有識者を学外評議員として選出しています。具体的には、行政動向に精通している者や経営、財務、コンプライアンス等の実務経験を有する者を任用しています。学外評議員には、本法人が社会的ニーズを踏まえた事業を展開しているか、また時代の変化に即したガバナンスが確保されているか、第三者の立場で客観的な意見が述べられることを期待しています。

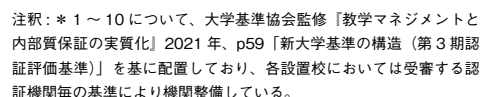
.....

教学マネジメント

学校法人藍野大学は、建学の精神、教育理念、ミッションステートメントを実現していくために、教育、研究、社会貢献、管理運営・財務の諸活動について、中長期事業計画をもとに学校法人のガバナンス改革を含むPDCA サイクルを機能させ、持続可能な質的水準の向上と内部質保証の実質化を推進するべく「内部質保証・教学マネジメント推進体制」を実装させています。

諮問機関である評議員会は、法人運営の適正化を図る観点から、理事会の意思決定に際して意見を具申します。本法人の運営方針や事業計画、法令上の諮問事項である予算、寄附行為の変更、合併など様々な重要事項に関して理事会が最終的な意思決定を行うに

学校法人藍野大学設置校における内部質保証・教学マネジメント推進体制 概念図



内部監査

学校法人藍野大学は、2022 年4 月に理事長直轄の組織として内部監査室を設置し、多彩なバックボーンを持つ外部有識者をメンバーに招聘しました。

健全な学校運営および組織の発展に資することを目的として、直接の利害を持たない中立的な第三者が監査に入ること、私立学校法改正を視野に幅広

い関係者の意見の反映を期待しています。

本法人は様々な分野において経験豊かな外部人材を内部監査員として登用することで、組織の機能強化（全学的な監査意識・コンプライアンス意識の向上）に取り組み、高等教育機関として価値創出力のさらなる拡大を追求しています。

Topics

中間期における内部監査員会議

2023 年12 月4 日～5 日にかけて、令和5 年度中間期における内部監査を行いました。

主に学校法人藍野大学の業務に関する決定および執行が関係する法令や諸規程に基づく適正性の検証を実施しました。



監査実施者の主査である若狭勝氏から、「総括的には少しずつではあるが財務面においても明るい兆しは見えつつあるように思う。他方、藍野大学短期大学部については、第二看護学科の定員未充足など新たな問題が表面化してきている。藍野大学短期大学部が大阪阿倍野キャンパスに移転することによる相乗効果に期待しつつ、びわこリハビリテーション専門職大学と藍野大学短期大学部の両校への関心と力点をさらに一層高めていく必要がある」とご指摘をいただきました。

内部監査室室長からのメッセージ



学校法人藍野大学
法人事務局長
一般社団法人
日本内部監査協会
IIA 個人会員
小林 正明

内部監査室は、2022 年4 月に理事長直轄の組織として設置され、リスクアプローチ監査を中心に中間監査、期末監査を実施してきました。

具体的には、内部監査員による、びわこリハビリテーション専門職大学と明浄学院高等学校の実地検査を行い、教職員に現状を丁寧にヒアリングし適正性を検証、監査結果をまとめ理事長に報告しました。

内部監査室の取り組みの成果として、学校法人藍野大学 BCP（事業継続計画）を作成し、事業活動（教育、研究、法人活動）の継続が困難な状況に陥らないための対応として、その適用範囲や基本方針を明確にするとともに、初動対応から持続可能な安定経営までの経営改善計画の適正履行を目指すための組織として学校法人藍野大学常任理事会でタスクフォースを設置し、経営改善に向けた取り組みを推進しています。

特に高等学校においては、明浄学院高等学校と藍野高等学校の統合による適正な運営確保のための計画として「明浄学院高等学校・藍野高等学校 統合実施基本計画」により報告がなされ、取り組み成果として、明浄学院高等学校に新たな衛生看護科を設置することによる相乗効果で衛生看護科・普通科の両学科において、入学定員を大幅に上回る志願者を確保することができました。

令和7 年度に施行される改正私立学校法に向け、さらなる学校法人ガバナンス改革に取り組んでいきます。

学校法人藍野大学 役員(理事・監事) 2024年4月1日現在

理事



小山 英夫

理事長 (担当する職務内容: 総括・将来構想)



山本 嘉人

副理事長 (担当する職務内容: 事業推進・財務運営・理事長特命・IR・KPI・KGI評価・AINO VISION推進)
日本私立大学協会 評議員
日本私立短期大学協会 加盟校代表者
びわこリハビリテーション専門職大学 学長特別補佐
明浄学院高等学校 副校長



角野 文彦

常務理事 [総務担当] (担当する職務内容: 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価)
びわこリハビリテーション専門職大学 学長



鷺見 光博

常務理事 [財務担当] (担当する職務内容: コンプライアンス・USR)
学校法人藍野大学 法人事務局
経営企画センター センター長



佐々木 恵雲

常務理事 [一貫教育担当] (担当する職務内容: 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価)
藍野大学 学長



足利 学

理事 (担当する職務内容: 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価)
藍野大学短期大学部 学長



渡邊 雅彦

理事 (担当する職務内容: 教育活動・研究活動・社会貢献・地域連携・高大接続・自己点検評価)
明浄学院高等学校 校長



清水 達郎

理事 (担当する職務内容: 事業会社支援・連携)
東洋興産株式会社 代表取締役



岡山 榮雄

理事 (担当する職務内容: 事業会社支援・連携)
中央総合会計事務所 所長 税理士

監事



中務 未樹

監事
(担当する職務内容: 業務監査・財産状況の監査・理事の業務執行状況の監査等)
ブランシュ法律事務所 代表弁護士



堀江 亮司

監事
(担当する職務内容: 業務監査・財産状況の監査・理事の業務執行状況の監査等)
堀江公認会計士事務所 公認会計士 税理士

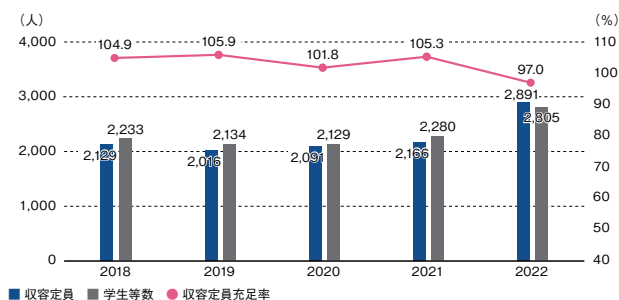
11か年財務サマリー

百万円

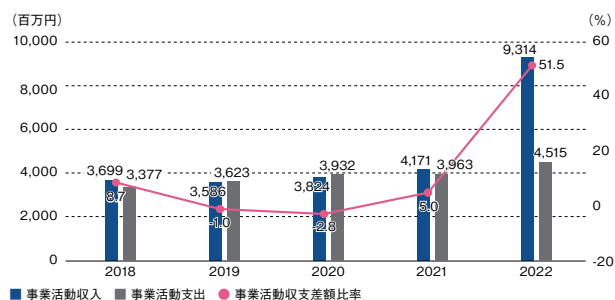
分類	年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
学生数	収容定員（人）（A）	1,965	2,010	2,070	2,096	2,122	2,122	2,129	2,016	2,091	2,166	2,891
	学生等数（人）（B）	2,001	2,157	2,208	2,258	2,260	2,281	2,233	2,134	2,129	2,280	2,805
	（収容定員充足率） B/A（％）	(101.8%)	(107.3%)	(106.7%)	(107.7%)	(106.5%)	(107.5%)	(104.9%)	(105.9%)	(101.8%)	(105.3%)	(97.0%)
事業活動 収支計算書	事業活動収入『帰属収入』（C）	3,404	3,539	3,588	3,625	3,672	3,700	3,699	3,586	3,824	4,171	9,314
	事業活動支出『消費支出』（D）	2,772	3,110	3,207	3,413	3,324	3,443	3,377	3,623	3,932	3,963	4,515
	（事業活動収支差額比率） （C-D）/C（％）	(18.5%)	(12.1%)	(10.6%)	(5.9%)	(9.5%)	(7.0%)	(8.7%)	(-1.0%)	(-2.8%)	(5.0%)	(51.5%)
	経常収入（E）	—	—	—	3,624	3,672	3,700	3,699	3,570	3,789	4,162	5,135
	経常支出（F）	—	—	—	3,363	3,324	3,443	3,359	3,502	3,867	3,945	4,503
	（経常収支差額比率） （E-F）/E（％）	—	—	—	(7.2%)	(9.5%)	(7.0%)	(9.2%)	(1.9%)	(-2.1%)	(5.2%)	(12.3%)
	人件費（G）	1,618	1,670	1,794	1,925	1,993	1,922	1,857	1,888	2,143	2,264	2,533
	（人件費比率）G/E（％）	(47.5%)	(47.2%)	(50.0%)	(53.1%)	(54.3%)	(51.9%)	(50.2%)	(52.9%)	(56.6%)	(54.4%)	(49.3%)
	運用資産	1,930	2,640	2,798	2,408	2,875	3,764	5,047	3,727	3,124	3,447	2,866
	外部負債	968	1,333	1,174	806	826	1,305	2,694	3,585	4,200	3,806	2,483
貸借対照表	（運用資産余裕比率）	(0.35 年)	(0.42 年)	(0.51 年)	(0.48 年)	(0.62 年)	(0.71 年)	(0.70 年)	(0.04 年)	(-0.28 年)	(0.00 年)	(0.08 年)
	流動資産	1,864	2,568	2,727	2,432	2,903	3,787	5,068	3,564	2,742	4,180	2,299
	流動負債	2,592	2,742	2,910	2,772	2,768	2,660	2,570	3,018	3,066	4,160	3,279
	（流動比率）	(71.9%)	(93.7%)	(93.7%)	(87.8%)	(104.9%)	(142.4%)	(197.2%)	(118.1%)	(89.4%)	(100.5%)	(70.1%)
	総資産	13,044	13,948	14,218	14,048	14,466	15,117	16,738	17,633	18,354	18,333	21,949
	総負債	3,250	3,725	3,614	3,231	3,302	3,696	4,995	5,928	6,756	6,528	5,345
	（総負債比率）	(24.9%)	(26.7%)	(25.4%)	(23.0%)	(22.8%)	(24.4%)	(29.8%)	(33.6%)	(36.8%)	(35.6%)	(24.4%)

- 学校法人会計基準改正（2015年4月1日施行）前の年度はCは帰属収入、Dは消費支出を算出。
- 事業活動収支差額比率の学校法人会計基準改正（2015年4月1日施行）前の年度は帰属収支差額比率を算出。
- 人件費比率は学校法人会計基準改正（2015年4月1日施行）前の年度はC帰属収入を除いて算出。
- 運用資産＝特定資産＋有価証券（固定・流動）＋現金預金。会計基準改正前は、運用資産＝その他の固定資産＋流動資産。
- 外部負債＝借入金（固定・流動）＋学校債（固定・流動）＋未払金（固定・流動）＋手形債務。
- 運用資産余裕比率＝（運用資産－外部負債）÷経常支出。会計基準改正前は、運用資産余裕比率＝（運用資産－外部負債）÷消費支出。
- 流動比率＝流動資産÷流動負債。
- 総負債比率＝総負債÷総資産。
- 負債率（学校法人の寄附行為および寄附行為変更の認可に関する審査基準）＝（総負債額－前受金）÷総資産額＝11.8％（2022年度決算値）。

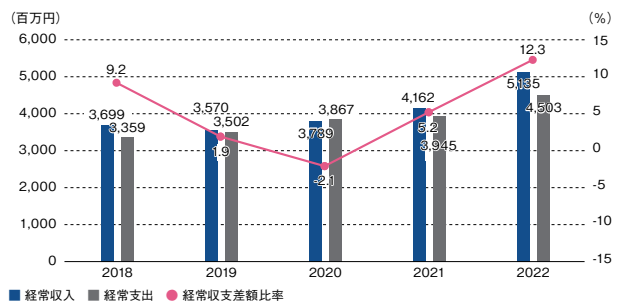
1. 学生等数および収容定員充足率



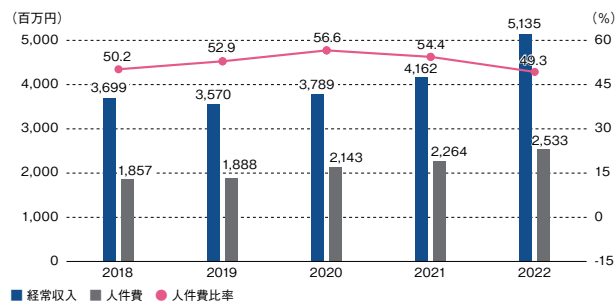
2. 事業活動収支差額比率



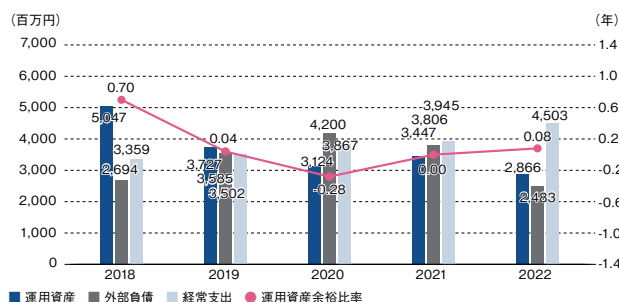
3. 経常収支差額比率



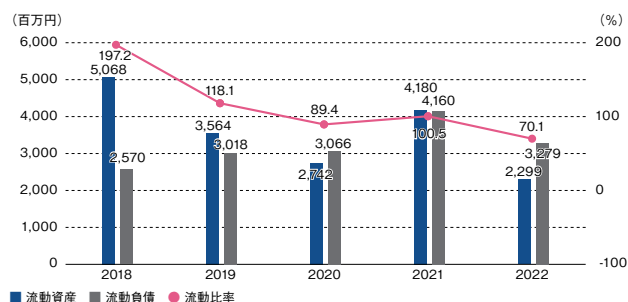
4. 人件費比率



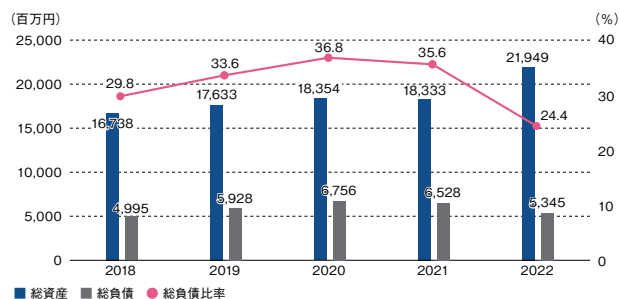
5. 運用資産余裕比率



6. 流動比率



7. 総負債比率



1. 学生等数および収容定員充足率

2022年度に明浄学院高等学校を本法人の設置校としたことに伴い、収容定員数が大きく増加しています。

2. 事業活動収支差額比率

事業活動収入に対する基本金組入前の当年度収支差額が占める割合です。この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実されていることとなり、経営に余裕があると見なすことができます。マイナスになると当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができないことを示し、基本金組入前で既に事業活動支出超過であり、資金繰りに支障をきたす可能性があります。

3. 経常収支差額比率

この比率は、事業活動収支計算書において、臨時的な要素を除いた経常的な活動に関する部分に着目した比率です。経常収支差額が黒字でなければ自己資本を取り崩すことになるため正常状態といえません。また経常収支差額が黒字であっても、基本金組入相当の黒字が生じていなければ事業活動収支は均衡しないため、経常収支差額比率(黒字幅)10%を目標値としています。

4. 人件費比率

人件費の経常収入に対する割合です。人件費は学校における最大の支出要素であることから、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因になります。教育研究条件等に配慮しながら各学校の実態に適った水準を維持する必要があります。

5. 運用資産余裕比率

運用資産から外部負債(借入金、未払金等)を差し引いた金額が、法人の1年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているかを示す比率です。この比率が1.0以上の場合、1年間の経常的支出を運用資産のみで賄えるだけの資産を持つことを意味し、高いほど良いとされます。なお、この比率の単位は(年)で表示されます。

6. 流動比率

1年以内に償還または支払うべき流動負債に対して、現金預金または1年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の短期的な支払能力を示す重要な指標で、高い値が良いとされます。ただし、学校法人は流動負債に含まれる前受金の比重が高く、流動資産においては、企業と異なり、多額の棚卸資産がないこともあり、一般的に企業に比べて低くなりますが、必ずしもこの比率が低くなると、資金繰りに窮しているとは限りません。

7. 総負債比率

負債総額の総資産に対する割合で、総資産に対する他人資本の比重を評価する重要な比率です。低いほど良く、50%を超えると負債総額が純資産を上回ることになり、さらに100%を超えると負債総額が資産総額を上回る状態(債務超過)となります。2022年度に明浄学院高等学校に係る財産を引き受けたとともに、同校の事業活動収支を通過で取り込んだため、総資産が大きく増加しています。



学校法人藍野大学 設置校一覧 (在籍者数は2024年4月1日現在)



学長：佐々木 恵雲

大学院

看護学研究科：収容定員12、在籍者数17

健康科学研究科：収容定員6、在籍者数6

医療保健学部

看護学科：収容定員464、在籍者数500

理学療法学科：収容定員400、在籍者数443

作業療法学科：収容定員160、在籍者数146

臨床工学科：収容定員160、在籍者数138

大阪茨木キャンパス

〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-4

TEL：072-627-1711 / FAX：072-627-1753



びわこリハビリテーション専門職大学



学長：角野 文彦

リハビリテーション学部

理学療法学科：収容定員310、在籍者数289

作業療法学科：収容定員150、在籍者数89

言語聴覚療法学科：収容定員20、在籍者数7

びわこ八日市キャンパス

〒527-0021 滋賀県東近江市八日市東浜町1-5

TEL：0748-20-1212 / FAX：0748-20-1213

びわこ東近江キャンパス

〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967

TEL：0749-46-2311 / FAX：0749-46-2313



藍野大学短期大学部



学長：足利 学

第一看護学科：収容定員200、在籍者数251

第二看護学科：収容定員240、在籍者数211

専攻科 [地域看護学専攻]：収容定員40、在籍者数40

大阪茨木キャンパス

〒567-0018 大阪府茨木市太田3-9-25

TEL：072-626-2361 / FAX：072-621-1901

大阪富田林キャンパス

〒584-0076 大阪府富田林市青葉丘11-1

TEL：072-366-1106 / FAX：072-366-1107



明浄学院高等学校



校長：渡邊 雅彦

普通科：収容定員540、在籍者数515

衛生看護科：収容定員360、在籍者数407

大阪阿倍野キャンパス

〒545-0004 大阪府大阪市阿倍野区文の里3-15-7

TEL：06-6623-0016 / FAX：06-6627-1165

附属施設

藍野大学中央研究施設

〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-4
TEL : 072-627-1711 / FAX : 072-627-1753
<https://univ.aino.ac.jp/info/labo/>

藍野大学中央図書館

〒567-0018 大阪府茨木市太田3-9-25
TEL : 072-625-6369 / FAX : 072-627-3355
<https://www.aino.ac.jp/centrallibrary/>

藍野大学キャリア開発・研究センター

〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-4
Medical Learning Commons 1F
TEL : 072-627-7878 / FAX : 072-627-7997
<https://cdr.aino.ac.jp/>

藍野大学短期大学部 メディカル・ヘルスイノベーション研究所

〒567-0011 大阪府茨木市高田町1-22 AINOPIA BLDG. 2F
TEL : 072-626-2361 / FAX : 072-621-1901
<https://col.medicalab.aino.ac.jp/>

藍野大学短期大学部 あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーション

〒567-0011 大阪府茨木市高田町1-22 AINOPIA BLDG. 2F
TEL : 072-627-7896 / FAX : 072-626-2414
<https://col.aino.ac.jp/2020/05/post-200.html>

関連法人

医療法人恒昭会

- ・ 藍野病院 (大阪府茨木市)
- ・ あいの訪問看護ステーション (大阪府茨木市)
- ・ 藍野花園病院 (大阪府茨木市)
- ・ 青葉丘病院 (大阪府大阪狭山市)
- ・ あおば訪問看護ステーション (大阪府大阪狭山市)
- ・ あおばケアプランセンター (大阪府大阪狭山市)

社会福祉法人藍野福祉会

- (障がい福祉サービス事業)
- ・ 出藍荘 (大阪府茨木市)
 - ・ 藍野療育園 (大阪府茨木市)
 - ・ 生活介護事業所あいの (大阪府茨木市)
 - ・ あいの放課後等デイサービス茨木 (大阪府茨木市)
 - ・ あいの放課後等デイサービスあい (大阪府茨木市)
 - ・ あいの放課後等デイサービスねやがわ (大阪府寝屋川市)
 - ・ あいの放課後等デイサービス東ねやがわ (大阪府寝屋川市)
 - ・ 相談支援センター藍野療育園 (大阪府茨木市)
 - ・ あいの短期入所茨木 (大阪府茨木市)
- (子ども・子育て事業)
- ・ あいの三島こども園 (大阪府茨木市)
 - ・ 千里ニュータウンこども園 (大阪府吹田市)
 - ・ あいの南千里駅前保育園 (大阪府吹田市)
- (高齢介護事業)
- ・ あいの苑 (大阪府茨木市)
 - ・ 青藍荘 (大阪府吹田市)

医療法人恭昭会

- ・ 彦根中央病院 (滋賀県彦根市)
- ・ デイサービスはるのうみ (滋賀県彦根市)



学章の説明

藍野病院の中に設置された学術財団のシンボルマークが
医療法人と学校法人に引き継がれたもので
Aino Hospital の頭文字である A と H を組み合わせ、そこに赤十字を配したものです。
なお、周囲に刻まれたラテン語の SALUTI ET SOLATIO AEGRORUM は、
神聖ローマ皇帝ヨーゼフ2世が、
現在のウィーン大学附属病院をウィーン市に寄贈した時の碑銘です。

学校法人藍野大学 統合報告書2023

2024年春発行

学校法人 藍野大学
統合報告書制作プロジェクト
〒567-0011 大阪府茨木市高田町 1-22
TEL : 072-621-3764
<https://www.aino.ac.jp/>